

1 文化元年（一八〇四）二月 御奉行所御役所向 言上帳

（表紙）

文化元年
御奉行所
御役所向
言上帳
二月吉祥日
四谷塩町老丁め
家主 大 助

火附盜賊改	町役所請書留	百十八	百八十三	七十六	百廿八
家主請狀書	奉公人請狀書				
借金御切金請	御裏御判拝見書			日無し出入請書一件	
奉公人引取請	切支丹御法度行事請			御成御拳場御請書	
女道中御関所御判物町年寄願	廿一			出入中欠落訴御日延願	
欠落訴尋御日延	廿三			武家方貸金出入願	三十
女取返し裏書御請	百七			米代金滯願	四十
（益力）	（虫損）			貸し金滯願	四十六
頸益り御検使一件	四十八			不通養子証文	四十七

百姓郷印貸し金御判物願 五十四 御普請方 百三十七
普請に付屋鋪へ届け 御狭物藏名主願
屋鋪奉公人給金一件九十九 町内道造り願 百五
牢送り物願 百十九 呉服物 一件 百廿二 紛失質屋訴出 百廿
持参金取返し出入 百廿一 養生所病人願 百廿七
御成御待衆へ切証文 百三十六 月行事持場御尋請
屋鋪掛り捨子貰証文 百三十八 子供養子証文 百三十八
借金出世証文 百四十 箱根御関所手形 百四十一 家質借証文 百四十
御加役差紙町内調物 欠落御帳附願 百四十五 頸益り検使願 百四十六
武家地借用証文 葉湯衣類紛失訴 百六十五 家主地主へ羽織願 百八十
く組龍土水割書 百廿五 捨子貰請町内証文 百八十六
口語誤詫証文 百三十四 武家へ貸金預届け 田舎引込礼証文 百九十八
餅株譲り渡状 武百 死骸寺送り状 武百 店賃滯名主願 武百三
初蔵拝借願書 武六

家守請狀の事

一此藤兵衛と申者、生国紀州賀茂郡下村にて能知存、慥成者に御座候間、我等家守請人に罷立、貴殿の御持所麴町拾三丁目北側、東角より五軒目、大道り裏口六間の家屋鋪沓ヶ所の家守に被仰付候所、実正に御座候、然る上は向後此藤兵衛儀に付、若何ヶ様の儀出来致候共、請人の我等罷出、其旦那御組合衆へも一切御苦勞相掛申間敷、地代金・店賃等毎月晦日に店主出情致、取立次第差上可申候、若引置等仕候は、早々私方より立替差上可「^{〔破損〕}」家屋鋪の儀は大切に相守、毎夜見廻り仕、御法度の儀無之様可為致申候事

一此藤兵衛宗旨の儀は浄土宗にて、鮫ヶ橋八軒町にて香蓮寺旦那に相違無御座候、判寺手形我等方へ取置候間、御入用次第差上可申候、右藤兵衛儀は、幾年成共、以此証文を御請合申上候、為後日の家守請狀、依之如件

天明元丑年十二月十日

四谷塩町老丁目家主

請人 吉左衛門

家守 藤兵衛

伊勢屋惣兵衛殿

奉公人請狀の事

一此藤吉と申者、生国信州於訪郡山本村にて能知存、慥成者に御座候に付、私請人に罷立、御奉公に差上置申所実正に御座候、御給金の儀は当寅年三月五日より、来る卯年三月迄貳兩貳步に御定め被下、当時御取替金沓兩、慥に請取申候、残金の儀は当十二月貳步、来る卯二月晦日沓兩御渡し被下候様被 仰聞、承知仕候、右藤吉儀

一御公儀様御法度・御触は不及申に、御家風急度為相守可申候、若此者儀取込・欠落等仕候は、早々尋出し、品物は勿論、御給金返上可仕候、此者何ヶ様の出入出来致候共、請人の我等引取、貴殿方へ少も御苦勞相掛申間敷候

一此者宗旨は浄土宗にて、市ヶ谷左内坂上宗丹院旦那に相違無御座候、若病氣等相煩候は、人替り成共差上、私所替り致候は、早速御届け可申上候、幾年成共以此一札を、御請合可申上候、為後日の奉公請狀、依如件

天明貳寅年三月十七日

市ヶ谷田町四丁目三右衛門店

請人 源治郎

人主 勝右衛門

吉左衛門殿

乍恐以書付を御訴訟奉申上候

一神田橋本町作兵衛店利兵衛頼に付、代伝八申上候、麴町八丁目弥助店市五郎、同所拾貳丁目助右衛門店長治郎、同町儀兵衛店又兵衛、四谷塩町壱丁目吉左衛門店伝兵衛、同所坂町幸七店善治、同町半兵衛店吉助、同町治左衛門店芳治郎、権田原六道之辻榎店治右衛門店三吉、右八人の者共へ、去る天明元丑年より追々貸し遣し置候金子、返済度々催促仕候所、出来難の旨之申候に付、無是悲今般右の者相手取、乍恐御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手八人被 召呼、元金利分共相添返金致暮候様被 仰付被下置候様、此段偏に／＼奉願上候、以上

天明三卯年十一月十五日

神田橋本町作兵衛店

訴訟人利兵衛頼に付、代

伝 八

家主 作兵衛

一元金三步^(分カ)

麴町八丁目弥助店

利貳歩と五匁五分^(分カ)

相手 市五郎

一元金三步^(分カ)

同所拾貳丁目助右衛門店

此利三步と四匁^(分カ)

長治郎

一元貳歩^(分カ)

同所同町儀兵衛店

此利三步と貳匁四分^(分カ)

又兵衛

一元貳歩^(分カ)

四谷塩町壱丁目吉左衛門店

此利壱兩と六匁八分

伝兵衛

一元壱兩^(分カ)

四谷坂町幸七店

此利壱兩貳朱と五匁

善治

一元貳歩^(分カ)

同町半兵衛店

此利貳朱と六分

吉助

一元金三步^(分カ)

同町治左衛門店

此利三步と貳匁^(分カ)

芳治郎

一元壱兩^(分カ)

権田原六道之辻町榎店治右衛門店

此利壱兩三步貳朱と五分^(分カ)

三吉

惣八口メ

御番所様

拝見申一札の事

一牧野大隅守様^(成賢・町奉行) 御番所御裏書御判相附、御差紙老通髓に拝見仕候、右御差日の儀は、来る廿一日迄に双方不相片付候は、双方一同

可罷出段奉畏候、依之拝見一札差出し申、如件

天明三卯年十一月十五日夜五つ半時

四谷塩町老丁目吉左衛門店

拝見主 伝兵衛

家主 吉左衛門

橋本町

伝 八殿

乍恐以書付を返答奉申上候

一四谷塩町老丁目吉左衛門店伝兵衛申上候、私儀神田橋本町佐兵衛店利兵衛より相手取、当月十五日当御番所様へ御訴訟申上候に付、御裏書の御判にて御差紙頂戴相附奉恐入候、然る所右相手利兵衛申上候私借金高式兩程に申立候へ共、左様は無御座候哉に奉存候、此段申上候、去る天明元丑年七月中元金儀は式歩^(分力)、此内前利を引、錢貳貫文請取、上納錢^(マ)四百八拾文利分に引、尤此節錢相場兩に五貫百三十式文に御座候所、老二ヶ月元金の内老貫六百文程相済殘金、尤私儀老々年半程相煩候に付、利分相滯候儀には御座候へ共、此節老貫八百文相渡し皆済致具候様掛合候所、承知不仕、此段何卒御慈を以、右掛け合にて皆済致具候様被 仰付被下置候様、偏に奉願上候

四谷塩町老丁目吉左衛門店

返答人 伝兵衛

御奉行所様

差上申済口証文の事

一神田橋本町作兵衛店利兵衛申上候、麴町八丁目弥助店市五良、同所拾式丁目助右衛門店長治郎、同町儀兵衛店又兵衛、四谷塩町老丁目吉左衛門店伝兵衛、同所坂町幸七店善治、同町半兵衛店吉助、同町治左衛門店芳治良、青山権田原六道之辻町榎店治右衛門店三吉、右八人の者共へ去る丑年より追々貸し遣し置候金子、当三月中より濟方相滯候に付、私度々催促仕候所、金子出来難の旨之申候に付、無是悲去る卯年十一月中、当 御番所様へ御訴訟申上候へは、借主一同被 召出、度々御吟味御利^(マ)の上、夫々年賦・月賦の濟方被 仰付被下置、一同難有承知仕候、右相手の者共不殘新親証文に仕、出入内済仕度此段奉願上候、何卒依之御吟味御下け被下成置、訴書御下け被下成置候様奉願上候、依之済口証文奉差上候、依如件

天明四辰年四月廿七日

神田橋本町作兵衛店 利兵衛

家主 佐兵衛

五人組 惣右衛門

名主 ^(マ)

麴町八丁目弥助店

相手 市五郎

家主 弥助
五人組 宇之助

同所拾貳丁目助右衛門店

相手 長治郎
五人組 三之助
家主 助右衛門

同町饒兵衛店

相手 又兵衛
家主 饒兵衛
五人組 徳左衛門

四谷塩町老丁目吉左衛門店

相手 伝兵衛
家主 吉左衛門
五人組 饒右衛門

同所坂町幸七店

相手 善治
家主 幸七
五人組 弥右衛門

同町半兵衛店

相手 吉助
家主 半兵衛
五人組 幸七

同町治左衛門店

相手 芳治郎
家主 治右衛門
五人組 甚兵衛
名主 半四郎

神田橋本町佐兵衛店

願人 利兵衛
家主 佐兵衛
五人組 藤七
名主 煩に付、代

御奉行所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主吉左衛門申上候、私共店伝兵衛と申者、去る卯年神田橋本町作兵衛店利兵衛方より金貳分借請候所、右利銀老兩と六匁八分、都合メ老兩貳分と六匁八分有之、返金延引仕候に付、私店伝兵衛を相手取、利兵衛饒去る天明卯年十一月中、当御番所様御訴訟申上候所、御慈悲を以老ヶ月に三百文宛に、切金濟方可致御証文に被為仰付、難有是迄濟方仕来り候所、右伝兵衛儀、去る十二月中旬より病氣にて、時廿日朝四つ時頃病死仕候に

付、金子貸し主神田橋本町作兵衛店利兵衛相届け、此段御訴奉申上候、以上

天明五巳年四月廿一日

四谷塩町老丁目

家主 吉左衛門

五人組 儀右衛門

名主 半四郎

牧野大隅守様

御番所様

乍恐以書付奉差上候不足済切証文の事

一 神田橋本町作兵衛店利兵衛并四谷塩町老丁目家主吉左衛門兩人申上候、去る天明五年卯年十一月中、四谷塩町老丁目吉左衛門店伝兵衛へ貸金滞候に付、当御番所様へ御訴訟申上候へは、七の御裏書御差紙にて伝兵衛儀被召出、度々御吟味の上、老ヶ月に錢三百文宛切金御証文に被下成置、是迄返金請取来り候所、右伝兵衛儀時廿日病死致候段、家主吉左衛門方より申来り候間、早々罷越候所、相違無之、右伝兵衛儀は是迄老兩式分と六匁八分の所、金^(分力)三百六匁文程請取候間、此上残りの分不足仕済切請取証文取替せ仕候間、此段御訴奉申上候、以上

天明五巳年四月廿一日

神田橋本町作兵衛店家主

訴人 利兵衛
家主 作兵衛

四谷塩町老丁目吉左衛門店伝兵衛店請人

訴人 新右衛門
家主 吉左衛門

御番所様

差上申引取一札の事

一 是迄私儀家守請に相立、貴殿御持の家屋鋪当三月六日迄家守相勤罷在候所、父病氣に付、国本へ罷越候に付、御暇頂戴仕、私方へ引取申所実正也、右藤兵衛儀に付、向後何方より何ヶ様の儀申来り候共、私引取候上は、貴殿へ少も御苦勞相掛申間敷候、為後日の入置申引取一札、依如件

天明八申年三月七日

四谷塩町老丁目家主

引取人 吉左衛門

赤坂田町

伊勢屋惣兵衛殿

引取申一札の事

一此長吉と申者、是迄私儀請人に罷立、御奉公に差上置候所、此節長吉儀御暇被下置、当人并に所持の品私へ御引渡し被下、慥に引取申候、然る所先達て長吉給金取替頂戴仕候所、金匱両此節日割勘定に被下成置、難有仕合に奉存候、右殘合差上当御家へ対し、一言の儀申上る筋無御座候、長吉儀に付、何様の出入来り候共、私引取候上は、少も御苦勞相掛申間敷候、為後日の引取申一札、依如件

天明八年六月廿一日

鯨^(阿カ) 橋谷町作兵衛店

新 助

吉左衛門殿

差上申証文の事

一徒者不見届け者の儀、拙者共町内店居い裏々迄名主・月行事并五人組立合吟味仕、若左様の者有之候は、早速御月番へ御訴可申上候、為其後町中連判手形差上之候、依如件

寛政三亥年三月五日

四谷塩町巷丁目家主

月行事

宇兵衛

儀右衛門

町内家主

金治郎

嘉兵衛

町年寄御役所
御番所様

吉左衛門
平 藏
治左衛門
伊右衛門
五兵衛
作兵衛
七兵衛
弥兵衛
利兵衛
藤右衛門
利右衛門
久兵衛
伝兵衛
兵 吉
儀左衛門
佐治右衛門
平左衛門
治兵衛

右は此度の儀、町年寄衆へ差出可申、当八月改の節は、八月中勝手次第、名主より月

番の奉行所へ、差出し可申段、被 仰渡候

嘉兵衛

差上申証文の事

一 四谷塩町耆丁目月行事宇兵衛并に家主中申上候、私共町内前々より御改有之候鉄炮の儀、向後共右所持の者有之候は、早々御月番の御番所へ可訴出段奉畏候、且又毎年九月共御改鉄炮所持の者有無哉の旨相改の所、此節^(マ)所持の者無之候に付、連判証文奉差上候、尤去る天明三卯年十月中被 仰渡置候より、別て念入相改候所、町人は不及申に、町医師・御抱医師・諸道具渡世の者迄内々相改候へ共、預り質物等にも鉄炮所持の者、耆人も無御座候、為其町中連判証文差上申候、依如件

寛政三亥年十月十八日

四谷塩町耆丁目月行事

家主 宇兵衛

五人組 儀右衛門

拾五番組の内

名主 孫右衛門

同 半四郎

右前書御触度々有之候へ共、私共耆人別鉄炮所持、又は預り申候覺無御座候に付、左に印形差上申候、依如件

町内家主 金治良

御番所様

右の通り家主店々裏々迄連判

差上申一札の事

一 切支丹宗門并 隠遊女・売女の事

一 博奕ヶ間敷事 加留多伐^(打カ) 勝負事

右四ヶ條の趣、急度被 仰渡承知仕、御請奉申上候、私共町中は申に不及、家持・借家・地借の面々裏々召仕等迄、此旨急度可相守候様被 仰渡、尤^(毎カ)牧年三月・八月両御番所様へ手形差上候通、申付方急度為相守可申候、今度別て弥嚴重に被 仰渡候に付、相改候所、左様の者無御座候、若又町内にて隠置、脇より相知れ於申出候は、何ヶ様の曲事にも可被仰付候、為後日の私町内一人別連判手形差上置申、依如件

寛政五丑年三月九日

四谷塩町耆丁目月行事

家主 宇兵衛

五人組 儀右衛門

拾五番組の内

名主 孫右衛門

同 半四郎

御番所様

右は毎年三月・八月両度両御番所へ考通つゝ差上候所、此度より毎年三月計り一度、月番の奉行所へ式通差上可申御触被 仰渡候、去る^(寛政三年)亥年二月老中松平越中守様被 仰出の由

差上申一札の事

四谷伝馬町三丁目

同所忍町

同所塩町式丁目

同 塩町三丁目

同所新屋鋪六軒町

右は私共町先年

上様御 鷹野に被為 成、其後町屋鋪に被 仰付被成下候に付、御拳場の分は勿語^(論カ)、右同様近町左の私共町内は

四谷伝馬町老丁目

同 新老丁目

同 式丁目

同所塩町老丁目

同所坂町上え・下た町^(マ、)

同所御簞笥町

同 南北伊賀町

同所了覚寺門前

同所四谷仲町^(マ、)

同 麹町拾老丁目

同 拾式丁目

同 拾三丁目

一御拳場五ヶ町并に近辺町内の裏々は勿語^(論カ) 私共支配町内には浪人

者并寺院出居い等当春人別相糺候所無御座、猶又此節御改に付、

入念吟味仕候所、一人も無御座候に付、則以一札を差上候、依如

件

寛政五丑年三月

拾五番組の内

右町々支配の行事

名主 孫右衛門

同 半四郎

同 与兵衛

四谷伝馬町三丁目

月行事 甚兵衛

同所忍町

月行事 佐兵衛

同所塩町式丁目

月行事 治 助

同 塩町三丁目

同所新屋鋪六軒町 月行事	勘治郎
御拳場近辺町 月行事	政右衛門
四谷伝馬町老丁目 月行事	勘七
同所 貳丁目 月行事	小兵衛
同所伝馬町新老丁目 月行事	三右衛門
同所塩町老丁目 月行事	宇兵衛
同所坂町上下た (マ) 月行事	幸助
下た (マ) 上え (マ)	安右衛門
同所御簞笥町 月行事	嘉七
同所伊賀町 月行事	藤右衛門
同所了学寺門前 月行事	治兵衛

同所四谷仲町 (マ) 月行事	重兵衛
同麴町 (マ) 拾老丁目 月行事	善兵衛
同 拾貳丁目 月行事	吉兵衛
同所 (マ) 拾三丁目 月行事	
町年寄御役所	
乍恐以書附を御願奉申上候	
一女上下四人	
四谷塩町老丁目	
家持五兵衛母	
髪長く櫛摺并咽廻り (くしずれ)	きせ
申分無之、白髪交り	五拾老才
右同断に御座候	ゆき
五兵衛伯母	四拾七才
從弟女	志津
右同断、但し髪の内 (禿)	四拾老才
釣はげ三ヶ所有之候	

下女

右同断、髪の内釣はげ

きし

袴ヶ所有之候、但し

五拾六才

口中齒前袴本欠け有之

右女上下四人此度勢州山田へ参宮仕度奉存候、依之箱根・今切両御関所の御手形頂戴仕度奉願上候、右伯母・従弟女兩人共、五兵衛方に厄介之仕差置候者に相違無御座候、尤家主・五人組・名主立合の上、吟味仕候所相違無御座候、以上

寛政三亥年三月八日

四谷塩町老丁目家持

人主

五兵衛

五人組

吉兵衛

同

利兵衛

拾五番組の内

名主

孫右衛門

同

茂八郎

樽 御役所

差上申女請狀の事

一此度四谷塩町老丁目家持五兵衛母きせ年五拾才、同伯母ゆき年四拾七歳、同従弟女志津年四拾才、下女きし年五拾六歳、右女四人從 江戸、勢州山田へ参宮仕候に付、箱根・今切両 御関所

の御手判願上申請候、右女共の儀は慥成者に御座候、万ヶ一若以來六つヶ敷出入等出来致候は、人主は不及申に、加判の拙者共罷出、急度申分け可仕候、尤道中にて相煩候哉、又は御手判紛失等仕、御関所不罷通候は、早々飛脚を以申越、家主・五人組・名主方より御訴可申上候、為後日の拙者共加判之仕一札差上候、依如件

寛政三亥年三月八日

四谷塩町老丁目家持

人主

五兵衛

五人組

吉兵衛

同

利兵衛

拾五番組の内

名主

孫右衛門

同

茂八郎

樽 与左衛門殿

奈良屋市右衛門殿

差上申一札の事

一四谷塩町老丁目家持五兵衛母・伯母・従弟女并下女等右四人の者、從江戸、勢州山田へ参宮に罷越申候に付、箱根・今切両 御関所の御手判奉願上候、依之右女吟味仕候所、髪の内櫛摺・出来物等の跡、面鉢等に出来物の跡一切無御座候、右女共の儀は武家

方其外相被頼、五兵衛儀人主に罷成差遣し候類には、且別て無御座候、勿語歩行にて差遣し申所相違無御座候、為後日の差上申一札、依如件

寛政三亥年三月廿三日

四谷塩町耆丁目家持

人主 五兵衛

五人組 吉兵衛

同 利兵衛

拾五番組の内

名主 孫右衛門

同 茂八郎

樽 与左衛門殿

奈良屋市右衛門殿

女御手形 御請書の事

一女四人從江戸、勢州山田参宮に罷越候に付、其箱根・今切両御関所の御手判奉願上被御意被懸、可被下候、此女は母・伯母・從弟女・下女に相違無御座候、若右女共の儀に付、以来六つヶ敷儀出入等於御座有に、其人主は不及申に、連判の者共罷出、急度申分け可仕候、為後日の差上申一札、依如件

寛政三亥年三月廿六日

四谷塩町耆丁目家持

拾五番組の内

人主 五兵衛

五人組 吉兵衛

同 利兵衛

名主 孫右衛門

同 茂八郎

小笠原石見守様 (政久) (留守居)

太田駿河守様 (資信) (留守居)

大屋遠江守様 (明兼) (留守居)

岡野備中守様 (和暁) (留守居)

小田切土佐守様 (直年) (町奉行)

根岸肥前守様 (鎮衛) (勘定奉行・道中奉行)

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主宇兵衛申上候、私店に罷在候拾番組人宿久兵衛儀、当二月廿三日本石町耆丁目宗助店利兵衛方より相手取、久兵衛へ相掛り候女出入、当月廿三日より十日限り尋被 仰付罷在、猶又廿五日本所設衆兵庫頭様へ当三月五日差上置候中間奉公人、同十日夜欠落仕、是又三十日限り被尋仰付置候所、右久兵衛儀一時廿八日朝其身養父伊兵衛差置罷出、以今帰り不申候に付、所々心当り相尋候へ共、行え相知不申候、依之此段御訴奉申上候、以

上

寛政四十年三月晦日

四谷塩町老丁目家主

訴人 宇兵衛

五人組 儀兵衛

名主 孫右衛門

小田切土佐守様
(直年・町奉行)

御奉行所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町老丁目家主宇兵衛申上候、私店人宿久兵衛儀、先達て本
石町老丁目宗助店利兵衛方より被相掛候女出入、十日の尋被 仰
付有之、猶又本所設衆兵庫頭様へ差出し置候男奉公人欠落仕、三
十日限りの尋被 仰付罷在候所、右久兵衛儀当三月廿八日其身養
父伊兵衛差置罷出、行え相知不申候に付、当三月晦日此段御訴申
上候へは、私へ十日限久兵衛尋の儀被 仰付候に付、心当り所々
相尋候へ共、以今行え相知不申、其節被仰渡候店請人今日召連、
此段御訴申上候、何卒御慈悲を猶又尋日延被 仰付被下成置候様、
偏に奉願上候、以上

寛政四十年四月十日

四谷塩町老丁目家主

願人 宇兵衛

御奉行所様

五人組 儀右衛門

差上申御請書の事

一四谷塩町老丁目家主宇兵衛并麴町平河町老丁目市右衛門店久右衛
門右兩人御請申上候、前書宇兵衛店拾番組人宿久兵衛儀、先月廿
八日養父伊兵衛儀、当子六拾四才に罷成候者捨置、久兵衛儀行え
相知不申候に付、当三月晦日右家主宇兵衛御訴申上候へは、久兵
衛儀尋十日限被 仰付、猶又今日店請人の私共被 召出、兩人へ
久兵衛行え三十日限り被 仰付、兩人奉畏候、依之差上申御請
書、如件

寛政四十年四月十日

四谷塩町老丁目家主 宇兵衛

五人組 儀右衛門

名主 孫右衛門

煩に付、代

由兵衛

麴町平川町老丁目市右衛門店

店請人 久右衛門

家主 市右衛門

五人組 又右衛門

御奉行所様

乍恐以書付を奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主宇兵衛并麴町平河町耆丁目市右衛門店久右衛門兩人申上候、前書宇兵衛店に罷居候拾番組人宿久兵衛儀、本石町耆丁目宗助店利兵衛方より被相掛候女出入并本所設樂兵庫頭様へ差出し置候男奉公人欠落致候に付、久兵衛へ当三月中三十日限り尋被 仰付有之候所、右久兵衛義当子六拾四才に相成候養父伊兵衛捨置、三月廿八日夜罷出、行え相知不申候に付、同晦日此段御訴申上候へは、家主宇兵衛私へ十日の尋被 仰付、猶又店請人久右衛門・家主宇兵衛兩人へ家材書上^(財力)三十日限り尋被 仰付候に付、兩人共所々相尋候へ共、以今に行え相知不申、何卒御慈悲を以又候尋御日延被 仰付被下置候様一同偏に奉願上候、以上

寛政四子年五月九日

四谷塩町耆丁目家主

願人 宇兵衛

五人組 儀右衛門

名主 孫右衛門

麴町平川町耆丁目市右衛門店

店請人 久右衛門

家主 市右衛門

五人組 由左衛門

名主 与兵衛

煩に付、代

半兵衛

御奉行所様

乍恐以書附奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主宇兵衛并に麴町平河町耆丁目市右衛門店久右衛門兩人申上候、前書宇兵衛店に罷在候拾番組人宿久兵衛儀本石町宗助店利兵衛方より相被掛^(方)候女出入并に本所設樂兵庫頭様へ差出し置候男奉公人、当三月十日欠落仕候に付、右久兵衛へ三十日の尋被 仰付有之候所、右久兵衛儀当子六拾四才に罷成候養父伊兵衛儀を捨置、当三月廿八日家出致、行え不申候に付、同三月晦日当 御番所様御訴申上候へは、家主宇兵衛・私へ十日限り尋被 仰付、猶又尋御日延願上候へは、店請人并に家主の私へ尋三十日つゝ兩人に両度被仰付、行え所々相尋候へ共、以今相知不申、何卒御慈悲を以、猶又尋御日延之、偏に被 仰付被下成置候様、一同奉願上候、以上

寛政四子年六月十日

四谷塩町耆丁目家主

願人 宇兵衛

五人組 儀右衛門

名主 孫右衛門

麴町平河町耆丁目市右衛門店

御奉行所様

店請人 久右衛門
家主 市右衛門
五人組 由左衛門
名主 与兵衛

乍恐以書付を以御請奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主宇兵衛并麴町平河町老丁目市右衛門店久右衛門兩人御請申上候、前書宇兵衛店拾番組人宿久兵衛儀、当三月十日頃久兵衛寄子惣助と申者勤差、駿河台御屋鋪に相動罷在候本石町老丁目宗助店利兵衛妹やすと申女と兩人欠落致候由哉に候、右兩人の取引手紙有之由にて、久兵衛を相手取、御訴訟申上候へは、七日の御裏書相附、三日目并本所設樂兵庫頭様へ差出し置候男奉公人欠落致、右に付久兵衛へ三十日限り尋被 仰付有之候所、右久兵衛儀、当子六拾四才に罷成候養父伊兵衛捨置、当三月廿八日夜不斗罷出行え相知不申候に付、同晦日此段御訴申上候へは、家主宇兵衛・私へ御尋十日切被 仰付、猶又店請人麴町平河町宗助店久右衛門へ尋被 仰付、是迄度御日延奉願上候へは、願の通被仰付被下成置候、然る所今に以行え相知不申、此段今日申上候へは、長の尋兩人へ被 仰付候へ共、是迄御日延願上、尋行届き不申候に付、兩人共に三貫文宛の過料被 仰付奉畏候、依之右御請奉申上候、依如件

寛政四十年六月十日

四谷塩町老丁目家主 宇兵衛
五人組 儀右衛門
名主 孫右衛門
麴町平河町老丁目市右衛門店

御奉行所様

店請人 久右衛門
家主 市右衛門
五人組 由左衛門
名主 与兵衛

初て御訴訟

貸し金滯出入

一金拾兩也

此利銀老兩老步^(分カ) 銀式匁式分七厘五毛

此内金式兩式步^(分カ) 去る亥年十二月請取

残て

一金八兩三步と銀式匁式分七厘 相滯^(分カ)

子十二月廿二日

小普請組酒井但馬守様御支配^(忠直)

土屋弥三郎様御隠居兵庫様 御家来

相手 大森 源兵衛

四谷塩町老丁目大助店

重右衛門病死、悴長之助幼年に付、代

伝兵衛

(鎮衛・町奉行)
根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書附を御訴訟奉申上候

一 四谷塩町老丁目大助店長之助幼年に付、代伝兵衛奉申上候、長之助父重右衛門存生の節、土屋弥三良様御隠居兵庫様へ、去る亥年十月中金拾兩御用立申上置候所、内金貳兩貳步^(分カ)亥十二月大晦日請取、殘金七兩貳步^(分カ)と利銀七拾七匁貳分相滯候に付、度々御掛合御催促仕候へ共、相済不申、乍恐難儀至極仕候に付、無是悲御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲を右相手役人中被 召出、滯不殘相済候様被 仰附被下置候様、偏に奉願上候、以上

文化元子年十二月廿二日

四谷塩町老丁目大助店

十右衛門病死、悴長之助幼年に付、代

伝兵衛

家主 大 助

小普請組酒井但馬守様御支配

土屋弥三良様御隠居兵庫様 御家来

相手 大森 源兵衛

享和三亥年十月証文

一金拾兩也

此利金老兩老步と貳匁貳分^(分カ)

内金貳兩貳步^(分カ)十二月大晦日請取

残て

メ金八兩三步と銀貳匁貳分也滯^(分カ)

御奉行所様

乍恐以書附を奉願上候

一 四谷塩町老丁目大助店長之助幼年に付、代伝兵衛奉申上候、長之助父重右衛門病死、存生の節左の土屋弥三良様御隠居兵庫様へ、去る亥年十月中金拾兩御用立置候所、内金貳兩貳步^(分カ)去る十二月請取、殘金七兩貳步^(分カ)と銀七拾七匁貳分相滯度々御催促御掛合申上候へ共、相済不申、乍恐難儀至極仕候に付、無是悲御訴訟、去る子の十月廿二日申上候へは、御達しに被酒井但馬守様へ下成、当二月廿日私儀計り被 召出、御尋に付、追書差上土屋弥三良様御頭様御取^(マ)を以当金貳兩貳步^(分カ)請取、殘金六兩老步と銀貳匁貳分者^(新カ)親き証文に仕、双方申分無出入内済仕度奉存候、何卒御慈悲を以訴狀御下け被下成置候様、偏に一同奉願上候、以上

文化二丑年四月十四日

四谷塩町老丁目大助店

願人 伝兵衛
家主 大助
五人組 太良兵衛
名主 孫右衛門

小普請組酒井但馬守様御支配

土屋弥三郎様御隠居兵庫様 御家来

相手 大森 源兵衛

御奉行所様

初て 御訴訟

貸し金滞出入

享和二年戊七月証文

一金三拾兩也

内金五兩戊十二月大晦日請取

残て

ノ金貳拾五兩 此節相滞

丑四月十四日

西御丸御小姓組御番頭本多^(忠忍)因幡守様御組

大久保長十郎様御家来

相手 池上 藤太夫

四谷塩町老丁目大助店

藤兵衛方に居候三治郎煩に付、代

訴訟人 伝兵衛

根岸肥前守様御掛り

御番所様

乍恐以書付を御訴訟奉申上候

一四谷塩町老丁目大助店藤兵衛方に居候三治良煩に付、代伝兵衛奉申上候、大久保長十郎様へ去る享和二戊七月中米代金滞、三拾兩内五兩右十二月大晦日請取、残貳拾五兩度々御掛合御催促仕候へ共、相済不申、尤米代金滞に付、^(新カ)親き証文には御知行所名主一同^(連カ)銘々蓮印取置之、無利促に仕候間、是又百姓・名主共罷出候節、掛合候へ共、埒明不申、乍恐難儀至極仕、無是悲御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以右相手役人中被 召出、済方仕候様被 仰付被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化二^(マ、)丑四月十四日

四谷塩町老丁目大助店

藤兵衛方に居候三治良煩に付、代

訴訟人 伝兵衛

家主 大助

西御丸御小姓組御番頭本多因幡守様御組

大久保長十郎様 御家来

相手 池上 藤太夫

享和貳戌年七月証文

一金三拾兩 内金五兩 同年戌十二月大晦日請取
差引残て金貳拾五兩 但米代金滞に付、無利足に御座候

御奉行所様

乍恐以書付を奉願上候

一 四谷塩町老丁目大助店藤兵衛方に居候三治良煩に付、代伝兵衛奉
申上候、大久保長十郎様へ米代金滞候に付、去る享和二戌年新ぎ
証文に仕候金貳拾五兩、度々掛合御催促仕候へ共、相済不申、乍
恐難儀至極仕候に付、無是^(マ、)悲^(マ、)当^(マ、)四月中 御訴訟申上候へは、御達
しに被 下成、難有仕合に奉存候、然るは当時金八兩請取候、残
金拾七兩は新ぎ証文に仕、双方無申分、出入内済仕度奉申上候、
何卒御慈悲を以当四月十四日申上候訴状御下け被 下成置候様、
偏に奉願上候、以上

文化貳五年十月廿五日

四谷塩町老丁目大助店

藤兵衛方に居候三治郎煩に付、代

願人 伝兵衛

家主 弥兵衛

五人組 幸助

名主茂八良煩に付、代

善治

西御丸御小姓組御番頭本多因幡守様御組

大久保長十良様御家来

相手 池上 藤太夫

御奉行所様

差出し申預り一札の事

一 我等支配の内、桶職吉右衛門弟五良兵衛儀、去る子年七月中聲養
子に罷越候由、利縁^(マ、)被致候所、右先おかね殿御娘子右吉右衛門方
へ此節罷越候に付、おとよ殿取返し出入に付、吉右衛門并五良兵
衛儀兩人私共へ御預けの趣、慥に預り申所実正也、為後日の預り
一札、依如件

文化^(マ、)貳^(マ、)五^(マ、)四^(マ、)月

四谷塩町老丁目家主 大助

おかね殿

差出し申拝見書の事

一小田切^(直年・町奉行)土佐守様

御裏書御判

右御裏書御判私共頂戴相附奉恐入候、おかね殿娘子取返出入、今
日より七日の間相懸け合、内済出来兼候は、当月晦日御差日一
同罷^(マ、)可^(マ、)出^(マ、)旨、此段奉畏候、依之拝見書差出し申、依如件

文化二丑年五月廿四日

四谷塩町耆丁目大助店 吉右衛門

弟 五良兵衛

家主 大 助

日本橋川瀬石町市蔵店

おかね殿

市 蔵殿

乍恐以書附を御訴訟奉申上候

一川瀬石町市蔵店小重郎後家かね申上候、私儀去る文化元子年七月中仲媒人桶町耆丁目家主与市と申者世話を以、四谷塩町耆丁目大助店吉右衛門弟 五良兵衛と申者、贅養子に貰請、娘とよと娶合、五良兵衛事小重郎と改名仕、跡目相統仕、然るに当四月中より小重郎儀家相統出来兼候間、離縁致呉候様度々之申に付、異見差加え差置候所、当五月中自分と衣類取片附家出致、桶町耆丁目媒人与市方へ罷越候に付、無扨引渡離別致候所、同月晦日私娘とよ儀不斗家出候間致、心当り所々相尋候所、離縁致候小重郎兄方に罷在候也、桶町与市方より為相知参り候間、同人私共四谷塩町吉右衛門方へ罷越、とよ儀相返し候様度々懸合候へ共、当人は勿論吉右衛門・小重郎共々相返し候存寄無之段申切、一向取合不申、此段全娘とよ儀を透出し候儀と乍恐奉存候、何卒御慈悲を以、相手吉右衛門并小重郎共被 召出、とよ儀相返し候様被 仰附被成下置候様に、偏に奉願上候、以上

文化二丑年五月廿四日

川瀬石町市蔵店小重郎後家

訴訟人 かね

家主 市 蔵

四谷塩町耆丁目大助店

相手 吉右衛門

同人弟五良兵衛事

相手 小重郎

小田切土佐守様

御奉行所様

乍恐以書附を奉願上候

一川瀬石町市蔵店小重郎後家かね申上候、私儀去る文化元子年七月中仲媒人桶町耆丁目家主与市と申者世話(以脱之)を四谷塩町耆丁目大助店吉右衛門弟五良兵衛と申者贅養子に貰請、娘とよと娶合、五良兵衛事小重郎と改名致、跡目相統為致候所、当四月中より家相統出来兼候間、離縁致呉候様度々之申候へ共、異見差加差置候所、自分と衣類取片附、当五月十日仲人桶町与市方へ罷越、離縁致呉候様、達て之申に付、無扨引渡申候所、同月晦日娘とよ儀、不斗家出致候間、心当り所々共相尋候所、桶町耆丁目家主与市方より、とよ儀は四谷塩町耆丁目大助店小重郎兄吉右衛門方に罷在候由、申参り候間、同人・私儀前書吉右衛門方へ罷越候て、度々娘とよ

儀相返し候様懸け合候へ共、一向取合不申、難儀至極仕候に付、
無是^(マ)悲五月四日当 御番所様へ御訴訟申上候へは、七日の御裏御
判頂戴仕、相手吉右衛門・小十良^(マ)へ持参仕、御裏書七日の内今日
とよ儀相返し、是迄心得違仕候段奉恐入候、右双方一同申分無御
座、出入内済仕度奉存候、何卒御慈悲を以願出御吟味御下け被
下成置候様一同奉願上候、依之済口証文奉差上候、依如件

文化二丑年六月朔日

日本橋川瀬石町市蔵店

^(マ)
小十郎後家

訴訟人 か ね

家主 市 蔵

五人組 又 七

名主^(マ) 頼に付、代

善兵衛

四谷塩町壱丁目大助店

相手 吉右衛門

同 五良兵衛

家主 大 助

五人組 儀兵衛

名主 茂八郎

御奉行所様

初て御訴訟

米代金滞出入

メ金八両壱歩式朱と銀五匁三分滞^(分カ)

丑二月廿四日

四谷坂町弥兵衛店藤兵衛頼に付、代

訴訟人 伝兵衛

市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店

相手 平 吉

^(鎮衛・町奉行)
根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書附御訴訟奉申上候

一四谷坂町弥兵衛店藤兵衛頼に付、代伝兵衛儀奉申上候、市ヶ谷田
町上式丁目惣兵衛店平吉へ、当正月中より米代金八両壱歩式朱と^(分カ)
銀五匁三分相滞候に付、度々懸け合催促仕候へ共、相済不申、乍
恐難儀至極仕候間、無是^(マ)悲御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手
平吉被 召出、不残済方仕候様被 仰付被下置候様、偏に奉願上
候、以上

文化二丑二月廿四日

四谷坂町弥兵衛店藤兵衛頼に付、代

伝兵衛

家主 弥兵衛
市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店

相手 平吉

一金八兩^(分カ)老步式朱と

銀五匁三分滯

御奉行所様

差上申一札御請書の事

一根岸肥前守様

御裏御判

右御裏書御判頂戴仕、難有仕合に奉^(マ、)上存候、然るに今廿四日より七日の内に、相手方双方共内済懸け合相済不申候は、来る晦日公事合当日可罷出之奉畏候、右日限の内若出火等有之候共、御裏書の儀は急度大切に仕、持出し焼申間敷候、依之為後日の差上申一札、依如件

文化式^(マ、)丑二月廿四日

四谷塩町 弥兵衛店藤兵衛煩に付、代

訴訟人

伝兵衛

家主

弥兵衛

御番所様

差出し申拝見書の事

一根岸肥前守様

御裏書御判

右は私共 御裏書御判頂戴仕奉恐入候、右御差日の儀は当晦日迄米代金滯出入内済可仕懸け合仕、若内済出来兼候は、晦日双方一同可罷出の段、御裏御判奉畏候、^(則カ)刻時共慥に拝見仕候、依之差出し申拝見書、如件

文化式^(マ、)丑二月廿四日

市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店

相手 平吉

家主 惣兵衛

五人組 佐兵衛

四谷坂町 弥兵衛殿御店

藤兵衛殿

代 伝兵衛殿

初て 公事

米代金滯出入

一金八兩^(分カ)老步式朱と銀五匁三分

滯高

丑二月晦日

四谷坂町 弥兵衛店藤兵衛煩に付、代

訴訟人

伝兵衛

当二月廿四日

御裏書頂戴

市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店

相手 平吉

御番所様

乍恐以書附奉願上候

一四谷坂町弥兵衛店藤兵衛煩に付、代伝兵衛奉申上候、市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店平吉へ米代金八両老步式朱と銀五匁三分相滞候に付、度々懸合催促仕候へ共、相済不申、無是悲御訴訟申上候へは、七日の御裏書御判頂戴仕、右当日双方一同公事合被召出、其後度々御吟味御利界被下成置、難有仕合に奉存候、然る所當時金三両請取、殘金五両老步式朱と銀五匁三分は親き証文に仕、双方一同申分無、出入内済仕度奉存候、何卒御慈悲を以御吟味御下被下成置候様、一同偏に奉願上候、以上

文化式丑年九月五日

四谷坂町弥兵衛店藤兵衛煩に付

願人	伝兵衛
家主	弥兵衛
五人組	幸助
名主	茂八良
煩に付、代	
善治	
市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店	
相手	平吉
家主	惣兵衛
五人組	佐兵衛

御奉行所様

差上申済口一札の事

一四谷坂町弥兵衛店藤兵衛煩に付、代伝兵衛奉申上候、市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店平吉へ、去る十二月中より米代金八両老步式朱と銀五匁三分相滞候に付、度々懸合催促仕候へ共、相済不申、無是悲當丑の二月廿四日御訴訟申上候へは、七日の御裏書被下成置、同晦日双方一同、同月晦日公事合当一同罷出、其後度々御吟味御利界被下成置難有仕合に奉存候、然る所當時金三両請取、殘五両老步式朱と銀五匁の儀は親き証文に仕、双方一同申分無御座、出入内済仕度奉存候、何卒以御慈悲を訴書御下被下成置候は、難有仕合に奉存上候、依之済口証文奉差上候、為後日の依之如件

文化式丑九月五日

四谷坂町弥兵衛店藤兵衛煩に付、代

訴人	伝兵衛
家主	弥兵衛
五人組	幸助
名主	茂八良
煩に付、代	

名主 左内
外御用に付、代 庄八

市ヶ谷田町上式丁目惣兵衛店

善治

相手 平吉

家主 惣兵衛

五人組 佐兵衛

名主 左内

外御用に付、代

庄 八

御奉行所様

不通養子証文の事

一此度我等実の娘きよと申、当丑の七才に罷成候者、此度一生不通にて貴殿へ養女に差遣し申所実正也、然る上は向後きよ儀に付、此方共一切差構無之候、此上貴殿方にて養育被致、何方へ成共御片附可被下候、其節一言の儀申間敷候、依之親類一同相談の上、差遣し候上は、此段相違等無御座候、若又横合より差構申者有之候は、加印の親類共罷出、急度埒明け御苦勞掛申間敷候、為後日の親類加印、依て如件

文化式丑年十月十三日

神田白壁町与兵衛店

きよ実父

卯 八

きよ実母 かね

同 町伊兵衛店八百屋卯八店請人

親類惣代 惣 八

四谷塩町

大 助殿

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私母儀は、生は神田鍛冶町老丁目出生にて、当時は妹かねへ家相統為罷在候所、右かねへ去る享和元十一月中、当時無宿八兵衛儀、神田佐内木町分岸町にて家主役仕居、前書かねへ智養子世話致、右八兵衛儀は智卯八仲人、私方母の妹かね儀は、安右衛門と申者仲人にて家相統仕候所、当四月中智卯八儀縁致、其後は右八兵衛儀とは一向出合不申、然る所此節無宿にて神田柄木町代地町弥兵衛店徳兵衛方にて、兼て知人の好身にて、八兵衛罷越し、昨夜九つ時頃首縊り相果候由、私共へ以 御差紙を被 召出、奉恐入驚候、然る所右八兵衛儀は、当時前書申上候通養子卯八儀の仲人にて御座候所、縁致候へ共、当時無宿八兵衛儀何共なけかわ敷奉存候間、外に身寄も無之、引取方附仕候者も無御座候は、以前の好身にて私共へ引取遣し申度奉存候、何卒御慈悲を以死骸御引渡被下置候様奉願上候、以上

文化式丑年十月廿二日

四谷塩町壱丁目家主

願人 大 助

五人組 儀兵衛

名主孫右衛門頼に付、代

伝 吉

小田切土佐守様

御番所様

差上申御請一札の事

一四谷塩町壱丁目家主大助御請申上候、私身寄に有之候当時無宿八

兵衛儀、神田柄木町代地弥兵衛店徳兵衛方にて、一時廿一日夜九

つ時頃、右二階にて首縊り相果罷居候を、徳兵衛妻見出し、当

御番所様へ御訴申上候へは、御検使鈴木半蔵様并根岸肥前守様御

組渡辺善十良様右御両衆より私共口書返言仕、右八兵衛儀外には

身寄も無御座候に付、死骸私共へ引取度旨申上候へは、猶又御

尋に付、御請書奉差上候、依如件

文化式丑年十月廿三日

四谷塩町壱丁目家主

引取願人 大 助

五人組 儀兵衛

御番所様

差出し申一札の事

一拙者支配内四谷塩町壱丁目家主大助身寄に有之候八兵衛と申者、

神田柄木町代地弥兵衛店指物師徳兵衛方にて、当廿二日夜九つ

時頃、右八兵衛儀首縊り相果候に付、同廿三日双寄合御月番町御

奉行所

小田切土佐守様へ御訴訟申上候へは、御組御検使鈴木半蔵様 根

岸肥前守様御組渡辺善十良様御検使相済、同廿四日拙者支配前書

大助へ右死骸引取被仰付候、依之何卒御葬・御回向被下成置候様

願上候、為後日の差出し申一札、依如件

文化式丑年十月廿四日

四谷塩町壱丁目支配

拾五番組の内

名主 孫右衛門

回向院

御役僧衆中様

初て御訴訟

貸金并年賦金滞出入

四谷塩町壱丁目大助店

訴訟人

伝兵衛

享和三亥年九月証文巻通

一元金拾四兩三歩^(分カ)と銀八匁六分

此利銀老兩老歩^(分カ)と銀拾三匁五分

右は丑年正月分より当十月分迄

元利^(分カ)都合金拾六兩老歩と七匁老分 相滞

御書院御番市岡左近様御知行所

上野国邑楽郡江黒村名主

相手 与左衛門

同 御 知行 所

下野国梁田郡野田村^(マ)

相手 与左衛門

享和三亥年九月年賦証文老通

一元金百九兩

内老ヶ年に三拾七兩宛相渡可済の所、去丑年分十月請取^(マ)可の

分相滞、猶又今年十月の分兩様相滞

メ七拾四兩 相滞

御書院御番市岡左近様御知行所

上野国邑楽郡野田村名主^(江黒カ)

相手 与右衛門

同 御 知行 所

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

二口^(分カ)メ九拾兩老歩と銀七匁老分

国 数 式ヶ国

郡 数 式ヶ郡

村 数 式ヶ村

人 数 式人

文化式丑年十一月十四日

四谷塩町老丁目大助店

根岸肥前守様

訴訟人 伝兵衛

御 番 所 様

乍恐以書附を御訴訟奉申上候

一四谷塩町老丁目大助店伝兵衛申上候、御書院御番御勤市岡左近

様御知行所上野国邑楽郡江黒村相手名主与右衛門、同御知行所下

野国梁田郡野田村相手名主与左衛門右両人の者共へ、去る享和三

亥年九月中貸し遣し置候金子并に年賦金滞候に付、度々懸け合催

促仕候へ共、一向と相済不申、当時の内は済方出来兼候様申切候

に付、難儀至極仕無是悲^(マ)御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手の

者共被 召出、右貸し金・年賦滞兩様済方被為 仰付被下置候様、

偏に奉願上候、以上

文化式丑年十一月十日^(虫潰)

四谷塩町老丁目大助店

訴訟人 伝兵衛

御番所様

家主 大 助

御書院御番

元金拾四兩三歩銀八匁六分

市岡左近様御知行所

此利銀壹兩壹歩と銀拾三匁五分

上野国邑楽郡江黒村名主

右は丑年正月より十月分迄

相手 与右衛門

元利ノ拾六兩壹歩と

銀七匁壹分 滞

同御知行所

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

享和三亥年九月年賦証文

同御知行所

元金百九兩

上野国邑楽郡江黒村名主

右壹ヶ年に

相手 与右衛門

内三拾七兩宛済方

同御知行所

七拾四兩子丑の十月

下野国梁田郡野田村名主

可請取の所滞

相手 与左衛門

国数 貳ヶ国

郡 貳ヶ郡

村数 貳ヶ村

人数 貳人

御奉行所様

乍恐以書付を奉願上候

一四谷塩町老丁目大助店伝兵衛申上候、私儀は十一月十四日御書院御番市岡左近様御知行所上野国邑楽郡江黒村与右衛門、同御知行所下野国梁田郡野田村名主与右衛門相手取、当御番所様へ御訴訟申上候へは、其後市岡左近様御役、御書院御番頭役高木伊勢守様へ御達しに相成、私共一同被召呼、高木伊勢守様御役人中石巻三左衛門被仰候には、当時金壹兩程は相済、残金の儀御知行所相手の者共へ懸け合暮候様被仰候へ共、済方金九拾兩余の金子へ壹兩又は相手百姓与右衛門・与左衛門へ懸け合仕候共、右は先達て申切候儀に付、何卒以御是悲を、三御奉行所様御裏書御判頂戴仕度奉存候、何卒相手の者共被召出、不残借金相済候様被為仰付被下置候様奉願上候、以上

文化式_(イ、)丑十一月廿九日

四谷塩町老丁目大助店

願人 伝兵衛

家主 大 助

五人組 儀兵衛

名主 茂八良

煩に付、代

要 助

御奉行所様

乍恐以書附を奉申上候

一 四谷塩町老丁目大助店願人伝兵衛申上候、私儀此度貸し金并年賦金滯出入に付、御書院御番市岡左近様御知行所上野国邑楽郡江黒村名主相手与右衛門、下野国梁田郡野田村名主相手与左衛門右兩人の者共、来る寅年正月廿一日御差日、三御奉行所様御裏御判頂戴仕度奉願上候へは、道行程御尋に付、左に奉申上候

一 日本橋より板橋道 上野国邑楽郡江黒村迄拾九里

一同 下野国梁田郡野田村迄貳拾式里

(道力) 右通法の儀は周道筋にて都合貳拾六里に御座候、以上

文化貳丑年十二月九日

四谷塩町老丁目大助店

願人 伝兵衛

家主 大助

五人組 太良兵衛

名主孫右衛門頼に付、代

善治

御奉行所様

乍恐以書附を奉願上候

四谷塩町老丁目大助店

一 貸し金并に年賦金滯出入

願人 伝兵衛

享和三亥年九月証文

市岡左近様御知行所

元利金拾六兩老歩(分カ)と

上野国邑楽郡江黒村名主

銀七匁老分

相手 与右衛門

但し元金拾四兩三歩銀八匁六分(分カ)

同御知行所

此利金老兩老歩銀拾三匁五分(分カ)

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

享和三亥年九月より年賦証文

同御知行所

元金百九兩

同国同郡同村名主

金七拾四兩 相滯

相手 与左衛門

右は老ヶ年に三拾七兩宛

同御知行所

濟方、去る子年、当丑の十月可

上野国邑楽郡江黒村名主

相濟の段相滯

相手 与右衛門

ノ貳口都合

国数 貳ヶ国

金九拾兩老歩銀七匁老分(分カ)

郡 貳ヶ郡

村数 貳ヶ村

人数 貳人

右願人伝兵衛奉申上候、市岡左近様御知行所上野国邑楽郡江黒村相手名主与右衛門、下野国梁田郡野田村相手名主与左衛門右兩人の者共へ、去る享和三亥年九月中貸し遣し置候金子并年賦金滯、

度々催促懸け合候へ共、相済不申候に付、乍恐難儀至極仕、無是
悲御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以、右相手の者被 召出、貸金
・年賦済方仕候様被 仰附被下置候様、奉願上候、以上

文化式丑年十一月十四日

四谷塩町壱丁目大助店

願人 伝兵衛
家主 大 助

御奉行所様

乍恐以書附奉願上候

四谷塩町壱丁目大助店

御判願
願人 伝兵衛
家主 大 助

貸し金并年賦金滞出入

上野国邑楽郡江黒村名主

相手 与右衛門

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

文化式丑年十二月十二日

御奉行所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町壱丁目大助店伝兵衛申上候、私儀貸し金出入にて、当月

十一日当 御番所様御初判にて外々

御奉行所様御裏御判頂戴相揃候間、相手上野国邑楽郡江黒村名主
与右衛門、下野国梁田郡野田村名主与左衛門右両人の者共方迄、
道行程日本橋より式拾式里有之候間、来る十七日立にて、明十八
日夕方迄に相手方宅迄罷越可申と奉存候、依之御判物相揃候間、
私共出達日御うかゞひ右書附を以奉申上候、何卒御差図奉願上候、
以上

文化二丑年十二月十三日

四谷塩町壱丁目大助店

願人 伝兵衛
家主 大 助
五人組 儀兵衛

御奉行所様

拝見御請け申一札の事

一三御奉行様 御裏書御判^{マシ}本

右は私共借金相滞候に付、此度我等相手被取、三御奉行所様御裏
書御判物頂戴仕奉恐入候、右御裏書の通り、来る寅年正月廿一日
江戸表御評定所へ、私共一同相揃可罷出の段、慥に奉拝見候、右
御評定日前日正月十七日迄に、江戸表へ罷出、明十八日朝四つ時
御懸り町 御奉行根岸肥前守様へ一同相揃可罷出旨、是又奉畏候、
右御判慥に拝見、御請書為後日の、依如件

文化二五年十二月十八日七つ時夕

市岡左近殿知行所

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

組頭 惣 八

百姓代 弥 七

江戸四谷塩町壱丁目大助殿店

伝兵衛殿

三御奉行所様御判物

預り申一札の事

一三御奉行所様

御裏書御判物壱本

右は私共借用金相滞候に付、出入被 相手取、御判物頂戴仕奉恐入候、慥に拝見仕候節、能々相改め立合吟味仕候所、桐箱に入、道中御持参、紙すれ墨附等無之候、右相改の上、私共へ被成御預け、慥に預り申候上は、若出火等有之候共、急度御判物の儀は早速差出し可申候、何ヶ様にも大切に可仕候、勿論盜賊等無之様村方改々^(マ)昼夜番人附置候、猶又来る寅年正月廿一日には、御評定所へ差上可申候、若相違御座候は、如ヶ様の御仕置にも被遊候様、為後日の御判物預り一札、依如件

文化二五年十二月十八日

市岡左近御知行所

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

組頭 惣 八

百姓代 弥 七

江戸四谷塩町壱丁目大助殿店

伝兵衛殿

差出し申拝見御請書の事

一私共儀借用金滞候に付、来る寅年正月廿一日江戸御評定所へ可罷出の旨

三御奉行所様御裏書御判頂戴仕、何共奉恐入候、右 御判物の儀は、慥に為^(マ)私共と拝見仕候、然るは、来寅年正月廿一日前日^(マ)十七日江戸表へ罷越、明十八日朝四つ時限、御掛りの根岸肥前守様へ一同相揃可罷出旨、是又奉畏承知候、為後日の拝見御請書、依如件

文化二五年十二月十八日

市岡左近知行所

上野国邑楽郡野田村名主^(江黒カ)

相手 与右衛門

組頭 多 吉

百姓代 与四郎

江戸四谷塩町壱丁目

伝兵衛殿

御判物預り一札の事

一三御奉行所様

御判物巻卷

右は私共借用滞金出入に付、御判頂戴仕何分にも奉恐入候、右御判私共立合拜見仕候所、紙すれ墨附等一向有之候、右巻卷我等方へ御預け被成候段、慥に預り申上候、然るは随分大切に仕、我等方にてても右様にも大切第一に仕置、紙すれ出来無之様可仕候、若万ヶ一出火等有之候共、御裏書御判の儀は早々差出し、勿論晝夜に不限番人附申候、来る正月十五日迄に江戸表出府の節、相違無之様持参之仕、御評定所へ差上可申候、為後日の差出し申御判預り一札、依如件

文化式丑年十二月廿日朝四つ時

市岡左近知行所

上野国邑楽郡野田村^(江黒カ)^(マ)

相手 与右衛門

組頭 多吉

百姓代^(マ) 与四郎

江戸四谷塩町老丁目

伝兵衛殿

乍恐以書付を御届け奉申上候

一四谷塩町老丁目大助店伝兵衛申上候、私儀下野国梁田郡江黒村名主相手与左衛門、上野国邑楽郡野田村名主与右衛門右兩人の者共を相手取、当御番所様へ御訴訟申上候へは、当月十四日御初判被下成置、三御奉行所様御裏書御判相揃、当月十八日相手の者共方へ持参仕拜見一札、依之請取御判物は相預け、今朝罷歸り申候間、此段御届け奉申上候、以上

文化式丑年十二月廿三日

四谷塩町老丁目大助店

訴人 伝兵衛

家主 大助

御番所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町老丁目大助店伝兵衛奉申上候、私儀去る丑年十一月中市岡左近様御知行所上野国邑楽郡江黒村名主与右衛門、下野国梁田郡野田村名主与左衛門右兩人の者共相手取、当正月廿一日御差日三

御奉行所様御判頂戴仕、右相手方へ持参仕候所、時十七日相手兩人の者并差揃の者共麴町拾丁目仙之助店番組宿利右衛門方へ當仕候、此段御届け奉申上候、以上

文化三寅年正月十八日

差上申御請書の事

一私共儀、明廿一日曉七つ時初て

御評定所へ被 召出候、家主・五人組・名主差添、相手与右衛門・与左衛門双方一同刻限無遅滞可 罷出旨被 仰渡奉畏候、若遅滞候は、何ヶ様の曲事にも可被 仰附、依之差上申御請書、如件

文化三寅年正月廿日

四谷塩町老丁目大助店

当 人 伝兵衛

家 主 大 助

五人組 儀兵衛

名 主 孫右衛門

煩に付、代

善 治

御奉行所様

乍恐以書付を奉申上候

四谷塩町老丁目大助店

伝兵衛

一初て 御評定

貸し金并年賦金滞出入

上野国邑楽郡江黒村名主

相 手 与右衛門

下野国梁田郡野田村名主

相 手 与左衛門

四谷塩町老丁目大助店

訴訟人 伝兵衛

家 主 大 助

五人組 儀兵衛

名主孫右衛門煩に付、代

善 治

市岡左近御知行所

上野国邑楽郡江黒村

相 手 与右衛門

組 頭 多 吉

百姓代 与四郎

同御知行所

下野国梁田郡野田村

相 手 与左衛門

組 頭 惣 八

百姓代 弥 七

右の者江戸宿

麴町拾丁目専之助店

利右衛門

名主(マ)麴町

矢辺与兵衛支配

御奉行所様

文化三寅年正月廿日

御評定所

乍恐以書附奉申上候

一四谷塩町老丁目大助店伝兵衛申上候、御書院御番市岡左近様御賄用金、御知行所名主方御引請にて、是迄御用立置候所、返金相滞候に付、去る丑年十一月中御訴訟申上、当正月廿一日初て私儀并相手方双方一同

御評定所へ被 召出、御吟味の節、相手方より右証文名違候様申上、并に地(マ)所市岡左近様よりの一札下知状差上候に付、此段御尋に付、左に申上候

一私儀去る八ヶ(年脱カ)以前より小通具(通カ)売商仕、右市岡左近様へ通具御用、

尤少々宛差上候所、八ヶ年以前寛政十未年、表御用役御暇にて無之間、世話致呉候様被 仰候に付、私儀口入を以高山惣治良と申者御抱被遊、右惣治良口入を以、金子御用立置、然る所右惣治良儀、永の御暇被 仰付、惣治良奉公請石井安右衛門と申者仕居候間、被 召呼候所、右石井安右衛門病氣に付、口入の私儀を市岡左近様直御手紙にて被 召呼、惣治良儀永の暇遣し、石井安右衛

門病氣の由、口入の其方早速屋鋪を引払候様被 仰付御請仕、其節迄は市岡左近様御裏御判にて、惣治良借主名前にて金子差出し、其節右金子月切相滞候間、度々御催促仕、埒明不申候に付、御奉行所様へ御訴訟可申上と存、御頭様高木伊勢守様へ御届け申上候へは、御役人中被仰候には、町 御奉行所への願書の写差出し候様、猶又一兩日の内、此方より申聞可申間、御奉行所願相待候様被 仰、右写し差上候へは、享和三亥年二月中、同五月四日御組御取扱に石巻三右衛門様へ被 召呼、此方共然る可様取扱致度、来る九月中には市岡左近殿知行所より、金子少々出来方有之由に付、相待暮候様被 仰、右九月廿五日猶又高木伊勢守様へ被 召呼、当時金拾兩相渡、残金の儀は享和三亥年より年賦、知行所名主引請証文に被下成、金子の儀は石巻三左衛門へ取扱申付候間、右三左衛門家来と道々にて市岡左近屋鋪今より罷可越段被 仰付候、然るに其節願上、是迄日限も程相延候間、何卒当御屋鋪様より右金子頂戴仕度旨申上候へは、九月廿八日金拾兩と新き証文頂戴仕、御礼一札奉差上候、右様の証文名違候様、相手方申上并左近様御下知一札何分にも心得堅、此段高木伊勢守様へ被 仰聞、被下成置候様奉願上候、右御尋に付、以書付を奉申上候、以上

文化三寅年正月廿一日

四谷塩町老丁目大助店

伝兵衛

御奉行所様

乍恐以書附を奉願上候

一四谷塩町老丁目大助^(マ)店伝兵衛申上候、市岡左近様御知行所上野

国邑楽郡江黒村名主相手与右衛門、下野国梁田郡野田村名主相手^(左カ)与右衛門右兩人の者へ、去る享和三亥年九月中貸し遣し置候年賦

金相滞候に付、去る五年十一月十四日御訴訟奉申上候へは、当正

月廿一日 御評定所へ相手一同可罷出御裏書 御判頂戴相附、御

差日当日双方罷出、其後御吟味に相成、御糺し御利解被 仰聞、

貸金拾六兩^(分カ)老步銀七匁分、年賦金百九兩内三拾七兩宛式々年相

滞、此分七拾四兩、二口都合九拾兩老步銀七匁分、右金高へ当

金拾兩請取、殘金百拾四兩三歩七匁分者、当寅年より式拾ヶ年

賦、十二月・七月兩度に三兩宛、老ヶ年六兩済、地^(マ)当所并市岡左

近様兩引請、親^(新カ)ぎ証文に仕、出入内済仕度奉存候、何卒御慈悲を

以御吟味御下げ被成下候様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年四月廿五日

四谷塩町老丁目大助店

伝兵衛

大 助

太郎兵衛

名主孫右衛門幼年に付、後見

名主茂八良頼に付、代

善 治

市岡左近様御知行所

上野国邑楽郡江黒村名主

相 手 与右衛門

下野国梁田郡野田村名主

相 手 与左衛門

頼に付、代

重左衛門

組 頭 元 助

百 姓 代 馬 治 良

江黒村百姓代組頭

多 吉

江戸宿

麴町拾丁目仙之助店

利右衛門頼に付、代

喜 八

市岡左近家来

小川庄三郎

御奉行所様

差上申御請書の事

一私共儀明二日晝七つ時、御帳外片済口にて

御評定所へ被 召出候間、家主・五人組・名主差添、済口証文持

参仕、右刻限無遅滞可罷出旨、被 仰渡の旨、奉畏候、若遅滞仕候は、何々様の曲事にも可被仰付、依之御請一札差上申、如件

文化三寅年五月朔日

四谷塩町老丁目大助店

当人 伝兵衛

家主 大 助

五人組 太良兵衛

名主孫右衛門幼年に付、

後見名主茂八郎頼に付、代

善 治

御番所様

御帳外片濟口

四谷塩町老丁目大助店

願人 伝兵衛

一貸し金并年賦金滞出入

上野国邑楽郡江黒村名主

元利百弍拾五兩^(分カ)歩^高

銀七匁^分分

相手 与右衛門
外 老 人

内拾兩當時請取申候

残金百四兩三歩^(分カ)と銀七匁^分分

右は親^(新カ)き年賦証文

文化三寅年五月朔日

四谷塩町老丁目大助店

訴訟人 伝兵衛

家主 大 助

御評定所

差上申濟口証文の事

四谷塩町老丁目大助店

訴訟人 伝兵衛

一貸し金并年賦金滞出入

市岡左近様御知行所

上野国邑楽郡江黒村名主

元利百弍拾四兩^(分カ)歩^高と

銀七匁^分分
相手 与右衛門
外 老 人

内金當時拾兩請取

残て百拾四兩三分七匁^分分

同御知行所

右金新き年賦証文仕候

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

外 老 人

右訴訟人伝兵衛奉申上候、右相手の者共へ相懸り候前書出入、書面の通り相滞候に付、去る丑年十一月中根岸肥前守様へ御訴訟申上候へは、当月廿一日 御評定所へ可 罷出御裏御判頂戴仕相附、当日双方 御評定所へ被 召出、御吟味に相成、度々御日延

願上、然る所前書の通り金子請取、残金の儀は、新き年賦証文に相改め、出入内済に致、是偏に御威光と難有仕合に奉存候、依之為後証の済口証文差上奉候、依如件

文化三寅年五月二日

四谷塩町老丁目大助店

訴訟人 伝兵衛

家主 大助

五人組 太郎兵衛

名主孫右衛門幼年に付、

後見名主茂八良頼に付、代

善治良

御評定所

乍恐以書附を奉願上候

四谷塩町老丁目大助店

御消印願

願人 伝兵衛

上野国邑楽郡江黒村名主

相手 与右衛門

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

文化三寅年六月十三日

御奉行所様

根岸肥前守様

御初判文化二丑十二月十一日

四谷塩町老丁目大助店

御判願人

家主 大助

御書院御番市岡左近様御知行所

上野国邑楽郡江黒村名主

相手 与右衛門

文化三寅年六月十三日

同御知行所

同十八日右対納候

下野国梁田郡野田村名主

相手 与左衛門

丸渡り
貳寸

右は御掛り御番所へふう印納の図

御消印巻、成丈小分に巻上御覽被遊候事

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目月行事大助申上候、私儀今日火附盜賊御改戸川大覚様御役所御差紙に付、今日罷出申候間、此段御訴奉申上候、以

上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町耆丁目家主月行事

訴人 大 助

五人組 儀兵衛

根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書付を奉申上候

一 四谷塩町耆丁目月行事大助申上候、私儀今朝可罷出御差紙にて、

被 召出候所、時^(昨カ)十七日私共町内持場の内、四谷御門外北の方御

堀端に有之候出張髪結床の後口の方にて博奕有之、右^(マ)の者御召取

被 遊候段を被 仰渡、奉敬^(驚カ)入候、右博奕の儀は兼々名主よりも

敵數被 申附、猶又店々迄申附置候所、時^(昨カ)十七日私儀月行事に相

当り、町内見廻り候へ共、右妹^(始カ)末の段、一向と不奉存、此段奉恐

入候、何分御慈悲奉願上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町耆丁目

月行事 大 助

五人組 太良兵衛

戸川大^(字カ)寛様火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目月行事大助申上候、私儀今日火附盜賊御改戸川大

寛^(字カ)様御役所御差紙に付、罷出候所、私共町内持場の内、四谷御門

外北の方に有之候出張髪結床後口の方にて、博奕有之、右御役所様御

廻り先にて被 召捕候者有之、右場所月行事持の段、御尋に付奉

恐入候、右博奕・火の元の儀は度々名主より敵數申附有之、時^(昨カ)十

七日私儀月行事に御座候間、時々見廻り候へ共、右鉢の儀一向不

奉存奉恐入候、右の段書面差上候へは、追て御沙駄^(汰カ)可有之旨被 仰

渡候に付、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町耆丁目月行事

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

御番所様

乍恐以書付を奉申上候

一 四谷塩町耆丁目平蔵店髪結久左衛門奉申上候、私儀町内持場の内、

四谷御門外北の方、御堀端通り出張髪結床の儀は、先親より家業

仕来り、夜分は老人宛、夏冬共土手見廻り役に相残り申候、尤私

儀は病心^(マ)に付、悴伊之助儀日々差出し置候所、時^(昨カ)十七日儀は、伊

之助義用事有之候に付、宿元へ罷越、弟子岩治良差置候所、夕方

当御組御見廻り様より伊之助義へ、御用有之候由にて被 召呼候

に付、早々罷越候所、右床にて博奕有之候段被 仰渡驚入候、右

博突・火の元の儀町内月行事より平日被申付有之、床近辺の義も心附可申の所、右躰の妹末有之候段被 仰渡、誠に奉恐入候、何分御慈悲偏に奉願上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町老丁目平蔵店

願人 久左衛門

家主 平 蔵

五人組 吉左衛門

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主平蔵申上候、私店髪結久左衛門義、今日火附盜賊改戸川大覚様御役所急御差紙にて罷出候所、四谷御門外北の方、御堀端通りに有之候久左衛門所持の髪結床後口の方にて、右久左衛門用事有之留守に、召仕岩治良外四人の者共博突致、前書御組御廻り先にて被 召捕、召仕岩治良儀は入牢被 仰附、久左衛門へ平日申附方御尋に付、右博突并火の元の儀は、兼て名主・月行事より敵敷被 仰候間、召仕へも申附置候所、時十七日私儀用事有之、留守召仕岩治良差置候所、右岩治良外四人にて右妹末に及候段、私一向存不申、奉恐入候段、以書付を申上候へは、追て御沙駄可有之旨被 仰渡候、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 平 蔵

五人組 吉左衛門

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主太良兵衛申上候、私店源太良儀、火附盜賊御改戸川大覚様御役所御差紙時夜相附、今五つ半時可能出段御請仕、今朝召連罷出申候、依之此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 太良兵衛

五人組 儀兵衛

御番所様

乍恐以書付を奉申上候

一 四谷塩町老丁目太良兵衛店源太郎申上候、私儀時夜当御役所御差紙に付、今朝罷出申候所、私悴平蔵儀、時十七日同所御堀端髪結床後口の方にて、博突之致候由、当御組御廻り先にて被 召捕、入牢被 仰付候段被 仰渡奉恐入候、此上何卒御慈悲を以御吟味相分り候は、御慈悲御赦免被下成、私共へ御引渡し被下成置候

様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町老丁目太良兵衛店

願人 源太郎

家主 太良兵衛

五人組 嘉兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴申上候

一四谷塩町老丁目家主太良兵衛申上候、私店源太良と申者、火附盜賊御改戸川太^(字カ)覺様御役所より、時^(昨カ)十七日夜御差紙に付、此段今朝御設置、右源太良義召連罷出候所、源太良悴平藏義、同所四谷御門外、御堀端通りに有之候髮結床後口の方にて博奕致、右御役所様御組御廻り先にて被 召捕、入牢被 仰付候段被 仰渡恐入、御吟味相分り候は、御赦免^(マ)之様、以書付を願上候へは、追て御沙駄^(汰カ)可有之旨、被 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年二月十八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 太良兵衛

五人組 嘉兵衛

御番所様

乍恐以書付を御慈悲奉願上候

一四谷塩町老丁目平藏店久左衛門奉願上候、私儀^(昨カ)時十七日儀は用事有之、留守中私持四谷御門外北の方に出張髮結床へ、弟子岩治良差置候所、右床後口にて岩治良外四人の者共博奕致候由にて、当御役所様御組御廻り先にて被 召捕、私儀^(昨カ)は時十八日御差紙を以被 召出、此段被 渡^(マ)渡候に付、誠に驚奉恐入候、此上何卒御慈悲を以、私召仕の岩治良并外四人の者一同御吟味相分り候は、私へ御引渡御赦免被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年二月十九日

四谷塩町老丁目平藏店

願人 久左衛門

家主 平藏

五人組 吉左衛門

火附盜賊御改

御役所様

差上御請書の事

一四谷塩町老丁目月行事大助御請奉申上候、私共持場の内に有之候四谷御門外、御堀端通北の方出張髮結床後口の方にて博奕致候者有之、当御役所様御組御廻り先にて被 召捕、入牢被 仰付置、今日手鎖にて御預けに被成下置、右手鎖^(封カ)封印の御改の儀は一・六

日に被 仰渡奉畏候、私儀五人組へ御預け同様に被 仰渡、是又奉畏候、御役所様御用の節は、何時成可罷出奉畏、依之差上申御請書、如件

文化三寅年二月廿日

四谷塩町老丁目家主

月行事 大 助

五人組 太良兵衛

火附盗賊御改

御役所様

乍恐以書付を御請奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主太良兵衛并源太良奉申上候、当二月十七日同町御堀端通りに有之候髪結床の後口の方にて、源太良私悻平治良外四人にて博奕致、当御役所様御組御廻り先にて被 召捕、右平治良義入牢被 仰付候段、明十八日御差紙を以被 召出、被 仰渡驚奉恐入候、同日以書を付右平治良義、御慈悲願上候所、猶又今日被 召出、手鎖にて私共へ御預け被下成、難有仕合に奉存候、右御対印一・六御改被 仰渡奉畏候、御役所様御用の節は、何時成共召連罷出申候、為後日の差上申御請一札、依如件

文化三寅年二月廿日

四谷塩町老丁目太良兵衛店

平治良父 源 太郎

家主 太良兵衛
五人組 嘉兵衛
戸川大實様
御役所様

乍恐以書付を御請奉申上候

一 四谷塩町老丁目平蔵店久左衛門并家主平蔵御請奉申上候、右久左衛門持主四谷御門外、北の方御堀端通りに有之候髪結床後口の方にて、久左衛門召仕岩治良と申者差置候所、右岩治良外四人の者共博奕致、当 御役所様御組御廻り先にて被 召捕、当十七日入牢被 仰付、私儀は明十八日御差紙を以被 召出、此段被 仰渡奉恐入候、同日私召仕岩治良并外四人の者儀を、以書付を御赦免御慈悲奉願上候へは、猶又私儀今日被 召出置、岩治良外四人者共手鎖にて家主へ御預け被下成、私儀は床主に付、久左衛門儀御預け同様に心得の段、被 仰渡奉畏候、右兩人共御用の節は何ヶ時成共、早速召連罷出申候、依之御請書奉差上候、為後日の一札、依如件

文化三寅年二月廿日

四谷塩町老丁目平蔵店

床主 久左衛門
家主 平 蔵
五人組 吉左衛門

乍恐以書付御訴奉上候

一四谷塩町壱丁目月行事大助申上候、私儀火附盜賊御改戸川大覚様^(字カ)御役所へ、猶又今日被 召出、町内持場の内出張髪結床後口にて博奕致候者有之、右御組御廻り先にて被 召捕、当十七日入牢被仰付、右十七日の儀は私月行事に相当り、時々町内見廻り、右妹^(姉)末有之、月行事平日申付方御尋に付、以書付を申上候へは、追て御沙駄^(汰カ)可有之段被 仰渡、其段御訴申上置候所、猶又今日被 召出、博奕致候者共は、御吟味中手鎖にて家主へ御預け被 仰付、私儀は預け同様相心得候様被 仰付候間、此段御訴奉上候、以上

文化三寅年二月廿日

四谷塩町壱丁目月行事

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

御番所様

乍恐以書付を御訴奉上候

一四谷塩町壱丁目家主平蔵申上候、私店髪結久左衛門召仕岩治良と申者、当月十七日、同所御堀端通りに有之候持主久左衛門髪結床後口の方にて博奕致、火附盜賊御改戸川大覚様^(字カ)御組御廻り先にて被 召捕、床主久左衛門義、明十八日差紙にて被 召出、岩治良

儀は入牢被 仰付候に付、其節久左衛門義、召仕岩治良の御赦免以書付を、御慈悲願上候へは、久左衛門并に岩治良義、追て御沙駄^(汰カ)有之可之旨被 仰渡候間、此段同日当 御番所様へ御訴置候所、猶又今日久左衛門義被 召出候所、召仕岩治良儀御吟味中、私共へ手鎖にて御預け被 仰渡、床主久左衛門義は、御預け同様の心得被 仰付候、此段御訴奉上候、以上

文化三寅年二月廿日

四谷塩町壱丁目家主

訴人 平 蔵

五人組 吉左衛門

御番所様

乍恐以書付を御訴奉上候

一四谷塩町壱丁目家主太良兵衛申上候、私店源太良悴平治良義、当月十七日同町御堀端に有之候髪結床後口にて博奕致、火附盜賊御改戸川大覚様^(字カ)御組御廻り先にて被 召捕、入牢被 仰付候間、同日此段御訴置候所、猶又今日源太良義被 召出、悴平治良義は御吟味中手鎖にて、私共へ御預け被 仰付候間、此段御訴奉上候、以上

文化三寅年二月廿日

四谷塩町壱丁目家主

訴人 太良兵衛

御番所様

五人組 嘉兵衛

差上申御請書の事

四谷塩町老丁目太郎兵衛店源太良梓

平治良

同 町平蔵店久左衛門召仕

岩治郎

同所坂町幸七店

彦治郎

市ヶ谷七軒町与兵衛店重兵衛方に居候

吉五郎

右四人の者儀、当三月十七日四谷御門外、御堀端北の方に有之候
髪結床後口の方、軒下にて博奕致、戸川大覚様御組御廻り先にて
被 召捕、御吟味中右家主へ手鎖にて御預け被下成、尤手鎖御対
印御改の儀は、一・六可罷出の段、被 仰渡有之候所、右戸川大
覚様には御御免にて、当 御役所様へ御引渡しに相成、前書是迄
の様相心得罷在候様被 仰渡、慥に奉畏候、依之差上申御請一札、
依如件

文化三寅年三月六日

四谷塩町老丁目

家主 平 蔵

同 町

五人組 伊左衛門

家主 太良兵衛

五人組 儀兵衛

同所坂町

家主 幸 七

五人組 伊兵衛

市ヶ谷七軒町

家主 与兵衛

五人組 八良兵衛

火附盜賊御改荒尾(成章・先手鉄炮頭)但馬守様

御役所様

乍恐以書付を御請奉申上候

一四谷塩町老丁目月行事大助并同町平蔵店髪結床持主久左衛門兩人
御請申上候、私共同町四谷御門御堀端、北の方出張髪結後口の方
にて、博奕致候者共有之候に付、戸川大覚様御組御廻り先にて被
召捕候段、明十八日私共御役所御差紙を以被 召出、被 仰渡驚
入奉恐入候、然るに右博奕致候者、御吟味中手鎖にて、家主へ御
預け被下成置、私共兩人の儀は、御預け同様相心得可申被 仰渡有
之候所、右戸川大覚様御役改に付、当 御役所様へ御引渡し相成、
猶是迄の通可相心得申段、被 仰渡奉畏候、依之御請書差上候、

依如件

文化三寅年三月六日

四谷塩町耆丁目月行事

大 助

五人組

儀兵衛

同 町平藏店

床持主

久左衛門

家主

平 藏

五人組

吉左衛門

火附盜賊御改荒尾但馬守様

御役所様

乍恐以書付御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目月行事大助申上候、私共町内持場の内、四谷御門外北の方、御堀端通りに有之同町平藏店久左衛門出張髪結床後口にて、博奕致候者有之候に付、当二月十七日火附盜賊御改戸川大^(字カ)覚様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中月行事私儀御預け同様被 仰付置候所、右戸川大^(字カ)覚様儀御役改に付、荒尾但馬守様へ御引渡に相成、是迄の通御預け同様被 仰渡候、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年三月六日

四谷塩町耆丁目家主

御番所様

月行事

大 助

五人組

太良兵衛

乍恐以書付を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主太良兵衛申上候、私店源太良悴平治良儀、同所御堀端に有之出張髪結床後口にて、当二月十七日博奕致、火附盜賊御改戸川大^(字カ)覚様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中手鎖にて家主御預け有之候所、右戸川大^(字カ)覚様御役改に付、荒尾但馬守様へ御引渡しに相成、是迄の通に被 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年三月六日

四谷塩町耆丁目家主

訴人

太良兵衛

五人組

嘉兵衛

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主平藏御訴申上候、私店髪結久左衛門儀、同所御堀端通り出張髪結床渡世仕罷在候所、当二月十七日用事有之、右床へ召仕岩治良差置候所、右召仕岩治良外に四人の者共博奕致候所、火附盜賊御改戸川大^(字カ)覚様御組廻り先にて被 召捕、御吟

味中手鎖にて家主へ御預け被 仰付、床主久左衛門儀は、御預け
同様心得の段被 仰渡置候所、右前書戸川大^(字カ)覚様御役改に付、荒
尾但馬守様へ御引渡しに相成、是迄の通相心得罷在候様被 仰渡
候間、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年三月六日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 平 蔵

五人組 吉左衛門

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目月行事大助申上候、当二月十七日私共町内持場の
内、四谷御門外御堀端通り北の方にて、同町平蔵店久左衛門出張
渡世髪結床後口にて、博突致候者有之、火附盜賊御改戸川大^(字カ)覚様
御組御廻り先にて被 召捕、手鎖にて家主へ御預け被 仰付、私
儀は右二月十七日月行事に相当り、町内見廻行届^(ケマ)不に付、御預
け同様に心得罷在候様被 仰渡有之、其後戸川大^(字カ)覚様には、御役
改に付、荒尾但馬守様へ一同御引渡しに相成、右同様に被 仰渡
有之候所、猶又今日被 召出、私儀月行事見廻方不行届に付、急
度御^(マ)被 仰付、右博突致候者の内、耆人駿河無宿鉄治良被留置、
一件落着仕候、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年四月十八日

四谷塩町耆丁目月行事

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主平蔵申上候、私店久左衛門出張髪結床四谷御
門外北の方、御堀端通り行家業仕罷在、当二月十七日儀^(マ)右久左衛
門儀、用事有之候に付、召仕岩治良差置候所、髪結に罷越候者共、
右久左衛門召仕岩治良外四人にて博突致、火附盜賊御改戸川大^(字カ)覚
様御組御廻り先にて被 召捕、御吟味中手鎖にて私共へ御預け被
仰付置、右床後口にて博突致、久左衛門床主申附方不行届に付、
御預け同様に心得罷在候様被 仰渡、其後戸川大^(字カ)覚様御役改に
付、荒尾但馬守様へ御引渡しに相成、是迄の様心得被 仰渡有之
候所、猶又今日被 召出、久左衛門義申附方不行届^(ケマ)に付、急度
御^(マ)被 仰付候、右召仕岩治良儀は、博突致候に付、重き敲に
て、私共へ御引渡被下成、一件落^(虫損)仕候間、此段御訴奉申上候、
以上

文化三寅年四月十八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 平 蔵

五人組 吉左衛門

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主太良兵衛申上候、私店源太良悴平治良儀、当
二月十七日同所御堀端通りに有之候出張髪結床後口にて博奕致、
火附盜賊御改戸川大覚様御組御廻り先にて被 召捕、御吟味中手
鎖にて私へ御預け被 仰付置、猶又今日 被 召出、博奕致候
に付、重敲の上、私共へ御引渡被下成候間、此段御訴奉申上候、
以上

文化三寅年四月十八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 太良兵衛

五人組 儀兵衛

御番所様

差上申御請書の事

一 四谷塩町耆丁目家主大助、同町平蔵店久左衛門兩人御請奉申上候、
当二月十七日私共町内持場の内、四谷御門外北の方に寄、御堀端
通りに有之右久左衛門出張髪結床後口軒下にて、名久左衛門召仕
岩治良義、差置留守中髪結に罷越候者共四人、岩治良共々博奕致、
戸川大覚様御組御廻り先にて被 召捕、手鎖にて御預け被下成、
其後当 御役所様へ御引渡しに相成、夫々御仕置被 仰付、御引

渡被下成置候所、其後御留置に相成候駿河無宿鉄治良事、此節島
流に御仕置被 仰付候に付、今日私共御差紙にて被 召出、此段
被 仰渡奉畏候、依之御請書差上候、以上

文化三寅年六月七日

四谷塩町耆丁目家主

其節月行事 大 助

五人組 太良兵衛

同 町平蔵店

床主 久左衛門

家主 平 蔵

五人組 吉左衛門

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目月行事大助申上候、私儀当二月十七日月行事に相
当り、町内見廻り候へ共、不行届ヶ町内持場の内、四谷御門外北
の方へ寄御堀端通り、同町平蔵店久左衛門出張髪結床後口の方に
て、博奕致候者有之、火附盜賊御改戸河大覚様御組御廻り先にて
被 召捕、御吟味中手鎖御預け被仰付置、其後右御役所御役改に
付、荒尾但馬守様へ御引渡しに相成、夫々博奕致候に付、重き敲
にて、御仕置御引渡被下成置候、其節右駿河無宿鉄治良儀、御留

置に相成、此節島流被 仰付候段、今日私儀被 召出、此段被
仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年六月七日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 儀兵衛

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主平藏申上候、私店久左衛門出張四谷御門外北
の方へ寄御堀端に有之候髪結床後口にて、召仕岩治良と申者、床
主右久左衛門留守に罷在候所、当二月十七日髪結に罷越候者共と
博奕致、火附盜賊御改戸^(マ)河太様御組御廻り先にて被 召捕、御
吟味中手鎖にて御預け被 仰付置、其後右御役所様御役之御免に
付、荒尾但馬守様へ御引渡しに相成、夫々重き敲御仕置被 仰付、
家主・五人組へ御引渡し被下成、其節河無宿鉄治良儀は御留置
に相成候所、此節島流御仕置に被 仰付候、此段今日私共被 召
出、被 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年六月七日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 平 藏

五人組 吉左衛門

御番所様

乍恐^(マ)以書附奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店に罷在候新兵衛と申者、当
三月中御金奉行牛込柳慶橋堀之内小膳様^(真向)へ男奉公人差出し候哉、
新兵衛儀も私へ申不聞^(マ)右御屋鋪様よりも私へ御届けも無之、然る
所右新兵衛儀、長病に付、店相仕舞申度旨申に付、其節新兵衛へ
初藏御^(マ)米願上、御手当頂戴仕、其後度々私地主よりも見継候所
行立堅^(マ)、同人尾州愛知郡名古屋出生にて、兄弟共へ相立、其節右
新兵衛店請人麴町拾丁目利兵衛店岩治良へ引取一札之取置引渡、
尤新兵衛儀、店請人立合の上、請印致候覚有無の段相尋候所、新
兵衛儀申候にも、奉公人請に立候儀無之段申之候に付、右の心得
にて店請人へ引渡申候、然る所此節、右御屋鋪様より御掛合に及
候間、其段申上候へは、当御奉行所様へ御達し被遊、私共被 召
出、御尋に御座候間、右の段奉申上候、以上

文化三寅年三月十九日

四谷塩町耆丁目家主

大 助

五人組 太良兵衛

小田切土佐守様

御奉行所様

差上申御請書の事

一 四谷塩町老丁目家主大助奉申上候、私店に数年来罷在候新兵衛と申者、去る丑年九月中より長病に付、右新兵衛儀尾州出生に付、店相仕舞、本国へ罷越候、其節請印致置候哉相尋候所、左様の儀無之段申之候所、此節牛込^(睦)柳慶橋御金奉行堀之内小膳様より、新兵衛請印致置候男奉公人、欠落致候段御掛合に及、当御番所様へ御達し被遊候に付、私共被召出、御尋に御座候所、右申上候始末に付、男奉公人成共、新兵衛成共行^(方)え尋被仰付候所、右御給金相済候は、尋に不及段被仰渡候間、私儀右奉公人給金上納仕度存候間、御尋の段御免願上候へは、願の通御聞濟被下成、御給金の儀は、十日切上納被仰付奉畏候、依私井店請人、新兵衛知人外式人都合四人新兵衛尋御免被仰付、右御給金上納請人之^(マ)為御請書一同申上候、為後日の差上申、依如件

文化三寅年三月十九日

四谷塩町老丁目家主 大 助

五 兵 衛

麴町拾丁目利兵衛店 岩 治 良

家 主 利 兵 衛

同所九丁目安兵衛店 新 助

家 主 安 兵 衛

赤坂裏伝馬町老丁目

御奉行所様

家 主 又右衛門

五人組 兵 吉

乍恐以書附奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主大助外三人奉申上候、牛込^(睦)柳慶橋御金奉行堀之内小膳様へ、去る丑年九月中新兵衛と申者請印致候哉、新兵衛儀長病に付、店相仕舞^(分)國本へ罷越、然る所右男奉公人小膳様御屋鋪欠落仕、右御給金尅^(マ)両式歩私共へ上納之被仰付、今日金子尅^(マ)両上納仕、殘金の儀は、来る廿五日迄十日御日延、偏に奉願上候、以上

文化三寅年三月十九日

四谷塩町老丁目家主

願 人 大 助

五人組 儀 兵 衛

御番所様

乍恐以書付を奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店に罷在候新兵衛と申者、去る丑九月中牛込^(睦)柳慶橋元方御金^(マ)行奉小之内小膳様へ、男奉公人差上置、右新兵衛儀は長病相煩候に付、本国尾州へ店相仕舞罷越候所、右奉公人此節欠落仕候に付、御掛合に及、当御奉行所様へ

御達しに相成、私共店請人共外三人へ奉公人成共、右新兵衛成共
両人の内尋被 仰付候所、右御給金相済候上は、尋御免之願上候
へは、願の通被 仰付、難有一同奉畏候、右御給金の儀は、十日
切上納被 仰付候所、御慈悲を以金壹両当十九日上納仕、残金
式歩は金廿五日上納仕候間、何卒御慈悲を以私共四人の者、新兵
衛・七助^(マ)尋の所御赦免^(マ)、偏に奉願上候、以上

文化三寅年三月廿五日

四谷塩町老丁目家主

(マ)

大 助

(マ)

儀兵衛

外三人煩に付

惣代

治 助

名主

孫右衛門

御奉行所様

以書付を奉願上候

四谷塩町老丁目大助店

当月十日病死致候紺物売久七後家

後家

な か

一五人暮し

三拾七才

娘

ゑ つ

先月六日より労症相煩罷在候

拾 才

娘 き ん

九 才

文化三寅六月十九日

悴 鉄治良

七 才

悴 松五郎

当 才

右久七儀当三月中旬より復寒^(傷力)相煩候所、日立兼罷居候所、猶又痢
病相煩、当月十日夜病死仕候所、娘きん儀先五月より労症相煩、
打臥罷在、然る所此節久七後家なか儀、血の道にて打臥罷在、乳
出兼候に付、店請人赤坂裏伝馬町清七店弥助妻罷越、当才男子乳
貰仕罷在候間、何卒御挽奉願上候、以上

塩町老丁目家主 大 助

御玄関様

乍恐以書付を奉願上候

一四谷塩町老丁目月行事大助奉申上候、私共町内道悪敷所、手入道
作り仕度奉存候、何卒今日より来る七月八日迄、日数四十日の間
御用の外、車留の儀被 仰付被下置候様、別紙会図面^(絵力)を以奉願上

候、何卒御聞濟被仰付被下置候様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年五月廿八日

四谷塩町老丁目月行事

願人 大 助

五人組 利右衛門

名主 茂八良

外御用に付、代

甚 八

御普請方

御役所様

地図（口絵 図1参照）

乍恐以書附を奉願上候

一 四谷塩町老丁目月行事大助奉申上候、私共町内道悪敷所、手入道作り仕度奉存、当五月廿八日より日数四十日限、御用の外車留願上候へは、願の通被 仰付、難有仕合奉存上候、然る所右道作りの儀、出来兼候に付、何卒今日数式十日限御日延、偏に奉願上候、以上

文化三寅年七月六日

四谷塩町老丁目月行事

願人 大 助

五人組 利右衛門

名主 茂八良

外御用に付、代

甚 八

御普請方

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目月行事大助奉申上候、私共町内道悪敷場所、手入道作り仕度奉存候に付、日数四十日限 御用の外車留願上候へは、願の通被 仰付、難有仕合に奉存候、然る所普請出来兼候に付、猶又式十日の御日延願上、此節普請出来仕候に付、今日車留取払申候、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年七月廿四日

四谷塩町老丁目月行事

願人 大 助

五人組 利右衛門

御普請方

御役所様

乍恐以書付を御訴訟奉上候

一四谷塩町老丁目大助店伊兵衛申上候、私儀去る丑年八月中迄、鮫
(河カ) 橋谷町善右衛門店に罷在候所、身の上不如意に相成候に付、無
抛店相仕舞、家材・諸通具等売払、借金の方相片付、私兄弟同様
に懇意に仕候同町鉄五良店三治良申候には、我等老母共式人暮し
に候間、暫の内同居致候様申に任せ、則三治良方へ私共夫婦同居
仕罷在候所、同十二月私母武州入間郡秋津村にて大病に付、妻い
よ義三治良方へ預け置、私儀は母勘病に罷越、在所表より妻いよ
小遣并に三治良方へは金子送り遣し申置候所、国本母養生不相叶、
取仕舞相片付、三治良方へ罷帰候間、妻いよ儀相尋候所、いよ儀
は先達て三治良方家出致、当二月中より所々相尋候所、此節同所
表町九左衛門店亀五良方に罷在候由、申に付、妻いよ親元赤坂表
伝馬町式丁目惣右衛門店金助、仲人四谷内藤新宿吉藏店清右衛門
世話にて貰請候間、段々相掛合右亀五良方へ、私共三兩人にて罷
越、度々掛合候所、亀五良申候には、其元儀妻いよ儀を三治良方
へ預け置、在所表へ罷被越、いよ儀一向養育等一向為致不申候に
付、いよ儀我等達て相頼候に付、無抛当二月中より養育遣し置候
間、此間々相返し候儀は難相成、是迄小遣い・諸入用・衣類等代
錢勘定可致申候へ共、此儀は私去る十二月中より三治良方へ六、
七度も金子相送り、右金子請取手紙も私方に御座候間、亀五良申
儀は、一つとしていつわりにて、其上私共懸け合に罷越候へは、

(マ) 利不尽の儀計申掛、悪口雜言口語之仕掛候様子に相見へ候間、其
(論カ) 場は立帰り申候、右仲人清左衛門へ掛合候へは、いよ儀能々申聞
可申段計之申、一向取合不申、無是悲御訴訟奉上候、何卒相手
亀五良・三治良被 召出、私妻いよ儀相返し候様、被 仰付被下
成置候様、奉願上候、以上

文化三寅年五月十一日

四谷塩町老丁目大助店

訴訟人 伊兵衛

家主 大助

鮫ヶ橋谷町鉄五良店

相手 三治郎

同所表町九左衛門店

相手 亀五良

伊兵衛妻

相手 いよ

右出入名主切にて内済

御奉行所様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店裏側普請仕候間、明十二日
より日数四十日限り、職人共高見上り致候間、此段御届け申上候、

何卒御聞濟被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年六月十一日

四谷塩町老丁目家主

願人 大 助

尾州様

御役所様

乍恐以書附御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店裏側普請仕候に付、職人共
高見上りの儀、先月十一日以書付を願上候へは、願の通被 仰付、
難有仕合に奉存候、然るは右普請今日出来致候間、此段御訴奉申
上候、以上

文化三寅年七月廿八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 大 助

尾州様

御役所様

乍恐以書附を奉願上候

一 四谷塩町老丁目大助店嘉兵衛奉申上候、四谷仲町忠右衛門店金兵
衛と申者、当月廿一日当 御役所様へ被 召捕、御吟味中入牢被

仰付候段、何共奉恐入候、然るに右金兵衛方へ、左の品々送り遣
し申度奉存候、何卒以を御慈悲、此段被 仰附被下成置候様、偏
に奉願上候、

覚

一 干菓子

老桶

一 干魚

老桶

一 手拭い

老筋

一 半紙

三状

一 銭貳百文

ノ五品

文化三寅年十月廿八日

四谷塩町老丁目大助店

願人 嘉兵衛

家主 大 助

五人組 太兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書付を奉申上候

四谷塩町老丁目大助店喜代三良儀、当十月二日出立、売買芝居役
者渡世にて田舎へ罷越、留守に付妻たき申上候、当月三日夜兼て

知人に御座候市ヶ谷長円寺門前家主不知弥助と申者、藤色縮緬紋所五三の桐女小袖壹つ持参り、弥助儀申候には、此節古着渡世致候間、右品直段安に候間、買求候様申に付、夫喜代三良留守中賃^(ツカ)苧銭着類洗たく賃取溜候金子にて式步式朱に買求申候、然る所一時^(昨カ)十一日当 御役所様より御差紙に付、今朝罷出候所、右弥助儀被 召捕候に付、右品物買求候哉、御尋に付、其節私儀外者へ世話致、買求候分にて売上げ取置候間、持参差上、御尋に付、此段奉申上候、以上

文化三寅年十二月十三日

四谷塩町一丁目大助店

喜代三良妻 た き

家主 大 助

五人組 嘉兵衛

大林^(親中・先手鉄炮頭)弥左衛門様火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附御訴奉申上候

一 四谷塩町一丁目家主大助奉申上候、私店喜代三良と申者、今日火附盜賊改大林弥左衛門様御役所急御差紙に付、喜代三良儀田舎へ罷越候に付、妻たき召連罷出候所、当月三日市ヶ谷長円寺門前町紋右衛門店弥助方より、右たき儀喜代三良留守中洗たく賃取溜候金子式分式朱にて、藤色縮緬紋所五三の桐女小袖一つ買求候哉、

御尋に付、買求候段申上候へは、今日中に右品差上候様被 仰附、則差上候へは、追て御沙駄可有之段被 仰渡候、此段御訴奉申上候、以上

文化三寅年十二月十三日

四谷塩町一丁目家主

訴人 大 助

五人組 嘉兵衛

御番所様

差上申御請書の事

一 四谷塩町壹丁目大助店喜代三良、田舎へ去る寅年十月中宮地芝居役者渡世に付罷越、妻たき奉申上候、私夫喜代三良留守中洗たく賃銀取溜持罷在候所、兼て知人市ヶ谷長円寺門前町紋右衛門店弥助方より藤色縮緬小袖壹つ買求候所、去る寅年十二月中品物差上、追て御沙駄可有之所、右弥左衛門様には御役御免にて当 御役所様へ御引渡しに相成、被 仰渡奉畏候、右たき儀御用の節は、何時成共召連可罷出候、依之御請書奉差上候、如件

文化四卯年四月朔日

四谷塩町壹丁目大助店喜代三良妻

た き

家主 大 助

五人組 嘉兵衛

名主孫右衛門幼年に付、後見
名主茂八郎頼に付、代

善 治

荒尾但馬守様火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店喜代三良妻たきと申者、去
る寅年十二月十三日火附盜賊改大林弥左衛門様へ罷出候、其節御
訴申上置候市ヶ谷長門寺門前紋右衛門店弥助より、藤色縮緬女小
袖買求候哉御尋に候間、其段申上候へは、品は御役所へ差上、追
て御沙駄可有之被仰渡候所、此節右弥左衛門様御役御免に付、荒
尾但馬守様へ御引渡し相成候間、此段御訴奉申上候、以上

文化四卯年四月朔日

四谷塩町老丁目家主

訴人 大 助

五人組 嘉兵衛

小田切土佐守様

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店喜代三良妻たきと申者、去

る寅年十一月三日市ヶ谷長門寺門前町紋右衛門店弥助方より藤色
縮緬女小袖一つ買求候所、同月十三日大林弥左衛門様御役所へ、
右品差上候所、当四月朔日右御役所御役御免にて荒尾但馬守様へ
御引渡しに相成、今日御差紙にて被 召出、右品は御取上、外に
御構無之被仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化四卯年五月十三日

四谷塩町老丁目家主

訴人 大 助

五人組 嘉兵衛

御番所様

(脱アルカ)

北御奉行所様

五人組 儀兵衛
名主 茂八良

差出し申拝見書の事

一根岸肥前守様

御裏書御判

右は御裏書御判頂戴奉恐入候、御差日の儀は当十二月十九日迄に
反物渡世滞金出入内済可仕相懸け合、若内済出来兼候は、廿日
一同罷可出の段奉畏候、朝五つ半時刻限共、拝見書依、如件

文化三寅年十二月十四日

四谷塩町壱丁目大助店

相手 嘉兵衛

家主 大助

麴町拾貳丁目清兵衛店

平兵衛殿

乍恐以書附を御訴訟奉申上候

一 麴町拾貳丁目清兵衛店平兵衛奉申上候、四谷塩町壱丁目安兵衛店
佐助、同町大助店嘉兵衛、市ヶ谷田町下貳丁目善右衛門店十助右
三人の者共へ、去る文化二丑年八月申より呉服物渡世仕候者共に
付、私儀田舎表より買出し候直段へ五厘を加へ貸し遣し候所、惣
高拾九両、又は貳拾両金の所へ、去る十二月中三両、又は五兩程
宛請取、残金拾両余も有之候所、猶又私より呉服物貸し遣し候所、
一向今に以代金相滞候に付、度々催促仕代金成共、品物成共相返
し暮候様懸合候へ共、埒明不申、乍恐難儀至極仕候に付、無是悲
御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手の者共被 召出、両様の内
濟方被 仰付被下置候様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年十二月廿日

麴町拾貳丁目清兵衛店

一 三拾八両貳步と銀拾三匁

訴訟人 平兵衛
家主 清兵衛

四谷塩町壱丁目安兵衛店

一九兩貳步と五匁 相手 佐助

同 町大助店

一 拾兩と壹步六匁 相手 嘉兵衛

市ヶ谷田町下貳丁目善右衛門店

一 拾八兩三步貳匁 相手 重助

根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書附返言奉申上候

一 四谷塩町壱丁目大助店嘉兵衛申上候、私儀呉服物売買仕居候所、
呉服物代金相滞候に付、左の平兵衛方より私を相手取、今日の御
裏書頂戴仕奉恐入候、然る所右平兵衛儀、私とは貳拾四、五ヶ年
も今迄に仕来り、当八月中よりも呉服物代金八、九拾兩程も取引
仕、右代金も相払、少々宛の端銀之相滞候儀に御座候、然る所当
時金三兩相濟之、残金の儀は来る正月中旬には、皆済仕候段、度
々懸け合候へ共、承知も不仕、此上何卒御慈悲を以、右の趣にて
懸け合候様、被 仰付被成置候様、偏に奉願上候、以上

文化三寅年十二月廿四日

四谷塩町壱丁目大助店

相手 嘉兵衛

御奉行所様

入置申一札の事

一此度我等儀を、呉服物代金相滞候に付、所々^(マ)と我等一同に相手取、南 御番所様へ、先月十八日御訴訟被申、廿四日公事に相成、是迄度々御吟味に相成、申延又は日延仕候所、当来る三月五日には、私共立合の上、急度内済金相渡し可申候、尤嘉兵衛金高拾兩^(分カ)老歩銀六匁の所、金五兩相渡可申候、猶又佐助儀九兩^(分カ)老歩と銀五匁の所へ、金四兩^(分カ)急度相渡可申候、為後日の入置申証文、依如件

文化四卯年二月十二日

四谷塩町老丁目大助店

相手	嘉兵衛
家主	大 助
同 町安兵衛店	
相手	佐 助
家主	安兵衛

平兵衛殿

乍恐以書付を奉願上候

一麴町拾貳丁目清兵衛店平兵衛申上候、四谷塩町老丁目大助店嘉兵衛、同町安兵衛店佐助、市谷田町下貳丁目善右衛門店十助右三人の者へ、去る文化二丑年八月中呉服渡世の者共に付、田舎買出し

直段へ五厘を加へ、貸し遣し候所、濟方一向不仕候に付、度々催促仕、代金成共、又は品物成共相返し候様懸け合候へ共、埒明き不申、乍恐難儀至極仕候に付、無是悲^(マ)当 御番所様へ御訴訟申上候へは、七日の 御裏書御判頂戴仕、偏難有仕合に奉存候、然る所右七日目双方罷出、当日公事合に相成度御吟味の上、濟方被仰付御延引奉願上候所、此節四谷塩町老丁目大助店嘉兵衛儀、拾兩^(マ)貳歩と銀六匁の内、当金五兩請取、殘金不足仕、同町安兵衛店佐助儀、九兩^(マ)老歩と銀五匁の所、当金四兩^(分カ)貳歩請取、殘金不足仕、市ヶ谷田町下貳丁目善右衛門店十助儀、拾八兩^(分カ)三歩と銀貳匁の内、当金拾貳兩請取可申、殘金の儀は、来る七月中旬限皆済可仕新規証文に仕、双方一同申分無御座、出入内済仕度奉存上候、何卒以御慈悲を御吟味御下け被下成置候様、偏に奉願上候、依之濟口証文奉差上候、依如件

文化四卯年三月七日

麴町拾貳丁目清兵衛店

願人	平兵衛
家主	清兵衛
五人組	平左衛門
名主	与兵衛
相手	嘉兵衛
家主	大 助

四谷塩町老丁目大助店

五人組 太良兵衛

同 町安兵衛店

相手 佐 助

家主 安兵衛

五人組 五兵衛

名主 茂八良

類に付、代

要 助

市ヶ谷田町下式丁目善右衛門店

相手 重 助

家主 善右衛門

五人組 新九良

名主 左 内

御奉行所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主彦兵衛申上候、私儀質物渡世仕罷在候所、一

時廿八日夜、私儀用事有之候に付、召仕伊助儀差置候所、同所伝

馬町老丁目源六店新兵衛方より、質物入度旨申来り、請人儀兵衛

兩人印形にて、品物預り置、金三歩式朱貸し遣し候所、時夜私儀

歸り相改め候所、帳面に相印有之候間、左の品持参此段御訴奉申

上候、以上

一花色八丈男帯

一木綿絞^(襦袢カ)り寿半

一木綿三筋立島拾^(堅縞カ)

但し裏花色木綿

一花色太織男羽織

但し裏太織菊小紋

ノ

文化四卯年六月初日

四谷塩町老丁目家主 質屋

訴人 彦兵衛

五人組 惣兵衛

荒尾但馬守様火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主惣兵衛申上候、私組合家主質屋彦兵衛と申者、

今日火附盜賊御改荒尾但馬守様御役所急御差紙に付、罷出候所、

同所伝馬町老丁目源六店新兵衛方より、質物取置候哉御尋に付、

其節私儀は田舎へ罷越、留守中召仕伊助と申者差置、品物預り置

申候、此段私歸り帳面相改め有之候間、此段申上候へは、右品早

々取寄、差上候様被 仰付候間、早速品物差上候へは、品物上置

追て御沙駄可有之旨被^(太カ) 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化四卯年六月朔日

四谷塩町老丁目

家主質屋彦兵衛五人組

訴人 惣兵衛

五人組 大 助

小田切土佐守様

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主惣兵衛申上候、私共組合内質屋彦兵衛と申者、
当六月中右彦兵衛儀田舎へ罷越、留守中召仕伊助儀差置候所、同
所伝馬町老丁目源六店新兵衛方より、衣類質物に預り申候所、右
品の儀は、右新兵衛方に居候又吉と申者盗取候品にて、当五月中
火附盜賊御改荒尾但馬守様御役所へ、又吉儀被 召捕、六月朔日
私共急御差紙にて被 召出、細末御尋質物に預り候段申上候へは、
同日品物御取上に相成、追て御沙駄可有之旨被仰渡、其節当 御
番所様へ御訴申上置、然るに此節被 召出、右前書新兵衛方に居
候又吉儀は、盜致候に付、死^(マ) の御仕置被 仰付、私共儀は、
彦兵衛儀留守中召仕伊助儀、何の心得も無、質物に預り、尤請人
両形にて預り候へ共、右品は盜物に付、御取上御^(マ) 無御座候段、
被 仰渡一件落欠仕候、依之此段御訴奉申上候、以上

文化四卯年八月十三日

四谷塩町老丁目

家主質屋彦兵衛五人組

訴人 惣兵衛

五人組 大 助

御番所様

初て 御訴訟

持参金 取返し出入

金貳百両者 但し大茶船二艘引当証文

卯十二月十四日

四谷塩町老丁目家主

訴訟人 太良兵衛

八丁堀南新堀町式丁目長治良店

相手 半右衛門

同方方に居候

相手 ゑ つ

小田切土佐守様

御番所様

乍恐以書附を御訴訟奉申上候

一四谷塩町老丁目家主太良兵衛奉申上候、私方に先代より年久く召仕候伊助と申者、去る寛政二年戊午^(手カ)着も明け候間、其後は迄手間に召仕罷置候所、麴町三番町牧野玖治郎様御屋鋪に罷在候由のあつと申者、以世話を南新堀式丁目長治良店藍玉問屋半右衛門方へ金貳百兩持参仕、養子に可罷越哉の旨申に付、右あつ申に任せ、取極め、尤半右衛門方渡世向、家事万端伊助に可任せ^(マ、マ)対語証文取之置、結納取任せ^(マ)引移り当日、あつ并半右衛門私へ申聞候には、藍玉渡世の儀手広に致候へ共、格別の儀も無之候間、持参と申も如ヶ何に候間、為引当と大茶船四艘并に藍玉問屋右二色引当、金貳百兩持参被致候は、伊助儀長く家事万端^(肩カ)方身等も広く候間、右にて取極め、私儀親元に相立、伊助国本一家等へ申送り、去る寅年十二月二日夜^(マ)夕方方私方為引移候所、あつ兩人にて夜深に相成、半右衛門方へは夜九時半時頃為引移候所、召仕の者共は対談存知不申候様子にて、其夜以ての外不都合に有之、あつ儀伊助并に私へ申聞候には、当十一月廿日申込、今夜迄十二、三日にて、見世の者へも薄々は申聞候へ共、然と申聞不申、^(マ)事に夜深にも相成候間、右鉢の儀に有之候由に付、同所二階へ罷越、半右衛門と盃致し、私儀は罷歸り申候所、何共心得不申候に付、同六日に猶又参上致候所、伊助引移り候二日夜、翌朝に至り候迄下総国郡不知^(多)蛸村惣左衛門、同国龍ヶ崎村儀兵衛と申者兩人罷越、伊助へ面談致申候には、半右衛門方家事万端の儀は兩人にて引請罷在候所、何様沙駄^(汰カ)も無之参り候哉の旨申、悪口等申候所、右あつ、半右衛門

方に泊罷在候間、罷出右惣左衛門・同国儀兵衛儀を申伏せ候由、夫よりあつと掛合、兩人共立歸候由、伊助より私へ相嘶候へ共、其日伊助儀も風引候由にて、咄しも不仕、私儀早々歸り申候、然る所八日夜四つ時頃迄は、相見へ候由、立の^(マ)俣にて家出致行^(カ)え相知不申段、九日夕方為知参り候間、早速罷越伊助所持の品相改め候所、簞笥前無之、引出し鼻紙袋の内に、金子貳兩貳^(分カ)歩錢貳貫六百文有之、引出し衣類木綿袷袖の内に持参金引当証文、ちり紙四つ折の中に有之候間、右金子并引当書付私方へ引取、猶又其後半右衛門方へ、度々懸け合、右鉢欠落致、熟縁も無之候上は、右貳百兩金子相返し、伊助行え^(マ)供々相尋呉候様、相頼候所、半右衛門并あつ申候には、伊助儀家出致候儀は何様に被申候共、心当りも無之候間、可尋仕段も無之、其上右持参金の儀も、期月も有之候間、返済の儀は堅^(難カ)相成之申に付、猶々疑敷段尤取留候儀も無御座候へ共、容易に奉願上候儀は、何共奉恐入候へ共、兎角半右衛門儀、日々家業に罷出、度々懸合に罷越候へ共、田舎へ仕入と申、家内召仕へ申置候て、私共へは面談不仕、半右衛門・あつ兩人共申合せ候儀と乍恐奉存候、依之無是悲御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手半右衛門并あつ兩人の者共被 召出、金子相返し、伊助行え供々相尋呉候様、被為 仰附被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化四卯年十二月十四日

四谷塩町老丁目家主

訴訟人 太良兵衛

五人組 儀兵衛

名主 茂八郎

煩に付、代

要 助

南新堀式丁目長治良店

相手 半右衛門

同人方に居候

相手 ゑ つ

御奉行様

初て公事

持参金取返し出入

一金貳百兩也

四谷塩町壱丁目家主

太良兵衛

南新堀式丁目長治良店

相手 半右衛門

同人方に居候

相手 ゑ つ

卯十二月廿日

乍恐以書附を奉願上候

一四谷塩町壱丁目家主太良兵衛申上候、私方に先代より召仕候伊助と申者、去る寛政二戌年、年^(季)き明け、其後は迄手間に召仕置候所、麴町三番町牧野政治良様に年寄の奉公仕罷在候内にて、知人に相成候多つと申者以世話を、南新堀式丁目長治良店藍玉問屋半右衛門方へ、金貳百兩之持参、順聲養子に右多つ申に任せ、当十二月二日夜引移り候所、右半右衛門儀家内召仕等へも録々^(マ)相咄し置不申候哉、色々手違有之候間、何共難心得奉存罷在候所へ、伊助儀同八日夜四つ時頃迄半右衛門方に罷在、不斗家出致行え相知不申候に付、伊助所持の品物相改め候所、衣類共并鼻紙入に金子入置家出致候間、疑敷事に、持参金相返し候様懸け合候へは、右金子には引当期月も有之候間、当時返済の儀は難相成の旨申に付、無^(マ)是悲御訴訟申上候へは、猶納^(マ)篤御吟味に相成、半右衛門・多つ申状一々申明け相立、誠に伊助儀半右衛門方家事万端取返し兼、自分と欠落致候様奉存上候、此上双方一同御吟味可請様無御座候、然るに持参伊助金子の儀は、期月も有之候へ共、当時金五拾兩請取、殘金百五拾兩の儀は、来る三月晦日限り皆済可致対談相極め、双方無申分出入内済仕度奉存候、何卒以御慈悲を御吟味御下け被下成置候様、一同偏に奉願上候、依之差上申済口証文、依如件

文化五辰年二月五日

四谷塩町壱丁目家主

願人 太良兵衛

五人組 大 助
名主 茂 八 郎

煩に付、代

要 助

南新堀貳丁目長治良店

相手 半右衛門

家主 長 治 良

五人組 安 治 良

同人方に居候

名主 あ つ
(マ、こ)

煩に付、代

吉 兵 衛

御奉行所様

乍恐以書附奉願上候

四谷塩町耆丁目大助店

嘉助方に居候同人甥

日雇稼 源 治 良

辰四十式才

一男瘡毒煩病人老入

右源治良儀、当三月中旬より瘡毒相煩罷在候所、当宿伯父嘉助儀

極貧にて諸薬等為給候儀は難相成候て、難儀至極仕候に付、何卒御慈悲を以

御養生所逗留被為 仰附、御療治被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化五辰年閏六月九日

四谷塩町耆丁目大助店

願人 嘉 助

右は先年御触通りの者に相違

煩に付、代

無御座候間、別鑑を以奉願上候、以上

忠 藏

家主 大 助

五人組 太良兵衛

名主孫右衛門幼年に付

後見名主 茂 八 郎

御養生所

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目大助店久五良申上候、私儀大工職渡世にて、牛込御納戸町出入御屋鋪様へ罷越候所、右御屋鋪に罷居候六助と申者、初て知人に相成候頃は、当十月廿二日御屋鋪細工初め、同十一月三日と覚候、私宅へ右六助罷越候由、私儀は留守にて、私妻かねへ申候には、夫久五良殿兼て知人の由之申、六助儀八丈切つき

火附盜賊御改大林弥左衛門様御組

牧 丈右衛門様

く女小袖着つ、木綿立島布子着つ持参り、暫しの内預り置暮候様申に付、妻かね儀、何の心えも無御座、預り置候所、右六助儀時五日当^(昨カ)御番所様へ被 召捕候段、請賜^(マ)り及候に付、右品持参、此段御訴奉申上候、以上

文化五辰年十一月六日

四谷塩町老丁目大助店 久五郎

(マ)

大 助

(マ)

儀兵衛

根岸肥前守様

御奉行所様

右は御訴申上置候へは、十二月廿五日被 召出、六助御仕置被 仰渡候計り

差上申御請書の事

一四谷塩町老丁目家主吉兵衛申上候、私店七兵衛と申者、明十日家主・五人組・名主差添、火附盜賊御改大林弥左衛門様御役所へ、朝正五つ半時召連可罷出旨、以御差紙を被 仰渡奉畏候、右は廻り御差紙に付、名主へ持参、早々^(マ)常達可仕候、為後日の差上申御請書、依如件

文化五辰年十一月九日

四谷塩町老丁目家主 吉兵衛

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主吉兵衛申上候、私店七兵衛と申者、時九日御差紙にて、今朝火附盜賊御改役大林弥左衛門様御役所へ召連罷出申候間、此段御訴奉申上候、以上

文化五辰年十一月十日

四谷塩町老丁目家主

訴人 吉兵衛

五人組 大 助

根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書付を奉願上候

一四谷塩町老丁目吉兵衛店七兵衛奉申上候、私儀同国越後国蒲原郡地藏堂村同国の好身^(よし)を以、去る卯年七月中より世話致、御武家方奉公^(マ)済為致置候米吉と申者、当月六日途中にて当御役所様御組御廻り先にて被 召捕、御吟味中入牢被 仰附奉恐入候、右米吉儀要事^(マ)無之、御吟味相分り候は、何卒御慈^(マ)を以、私共へ御引渡し被 下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化五辰年十一月十日

四谷塩町耆丁目吉兵衛店

願人 七兵衛
家主 吉兵衛
五人組 大助

火附盜賊御改大林弥左衛門様

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主吉兵衛申上候、私店七兵衛と申者、同国の好身を以、世話致置候米吉と申者、奉公済致罷在用事有之麻布辺へ罷越候途中、火附盜賊御改大林弥左衛門様御組御廻り先にて被召捕、入牢被仰付候段被仰渡恐入、右米吉儀の御慈悲願、以書面を差上候へは、追て御沙駄可有之段被仰渡候に付、此段御訴奉申上候、以上

文化五辰年十一月十日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 吉兵衛
五人組 大助

御番所様

差上申御請書の事

一四谷塩町耆丁目吉兵衛店七兵衛奉申上候、私儀同国の好身を以、

去る卯年七月中より世話致置候米吉と申者、当十一月中当御役

所様御組御廻り先に被召捕、御吟味中入牢被仰付置候、米吉儀昨十七日牢死候に付、死骸私共へ御引渡被下成候様申上候へは、御引渡被仰聞、有難奉畏候、依之則御請書奉差上候、如件

文化五辰年十一月十八日

四谷塩町耆丁目吉兵衛店

引取人 七兵衛
家主 吉兵衛
五人組 大助

火附盜賊御改大林弥左衛門様

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主吉兵衛奉申上候、私店七兵衛と申者同国の好身にて、去る卯年七月より米吉と申者世話に致、奉公済為致置候所、不知細子当月六日火附盜賊御改大林弥左衛門様御組御廻り先にて被召捕、御吟味中入牢被仰附、私店七兵衛儀は十一月十日御差紙にて被召出、此段被仰渡、其節御吟味相分り候は、私共七兵衛へ御引渡被下成候様御慈悲願致置、其節当御番所様へ御訴申上置候所、猶又今日被召出、米吉儀昨十七日牢死候に付、死骸御引渡被仰付候間、引取申候、此段御訴奉申上候、以上

文化五辰年十一月十八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 吉兵衛

五人組 喜兵衛

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主吉兵衛奉申上候、私店七兵衛と申者同国の好身を以、米吉と申者世話致奉公^(ア)濟為致置候所、先月六火附盜賊御改大林弥左衛門様御組御廻り先にて、被 召捕、御吟味中入牢被仰付、同月十七日右米吉儀牢死候に付、十八日私共被 召出、死骸御引渡被 下成、引取申候所、猶又今日被 召出、先達て病死致候米吉儀、存生にも有之候は、入墨の上にて重敲可被 仰付の所、病死致候間、御沙駄^(泳カ)に不及候段被 仰渡、一件落着仕候、此段御訴奉申上候、以上

文化五辰年十二月十八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 吉兵衛

五人組 大 助

御番所様

乍恐以書附を奉申上候

(脱アルカ)

乍恐以書付を奉申上候

一 四谷塩町耆丁目大助店辻うらない晋三奉申上候、私同職青山御手大工町玄昌と申者方にて、初て知人に罷成候龜吉と申者、当 御役所様^(昨カ)一時廿九日被 召捕、入牢被 仰付罷在候、然る所私儀以御差紙を被 召出、此段御尋に御座候所、右龜吉儀は常亭身持実^(マ)鉢成者に御座候間、御吟味相分り候は、何卒以御慈悲を御赦免被下成、私共へ御引渡被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化五辰年十一月朔日

四谷塩町耆丁目大助店

願人 晋 三

家主 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

差上申御請書の事

一 四谷塩町耆丁目大助店晋三御請奉申上候、私同職兼て知人に罷在

候亀吉と申者、^(昨カ)時廿九日当 御役所様御組御廻り先にて被 召捕、入牢被仰付奉恐入候、然るに右亀吉儀御吟味相分り候は、私共へ御預け被下成置、難有仕合奉存、御用の節は何時成共、早速召連可罷出の段被 仰渡奉畏候、依之為後日の差上申御請書、依如件

文化五辰年十一月朔日

四谷塩町耆丁目大助店

(マ、)

晋 三

家主

大 助

五人組

太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店晋三と申者、今日火附盜賊御改大林弥左衛門様御役所急御差紙にて罷出候所、私店晋三兼て知人に有之候亀吉と申者、^(昨カ)時廿九日右御組御廻り先にて被 召捕候所、御吟味相分り、右亀吉外に身寄も無之に付、晋三へ御引渡し被下成候間、引取申候、此段御訴奉申上候、以上

文化五辰年十一月朔日

四谷塩町耆丁目家主

訴人

大 助

御番所様

五人組 義兵衛

入置申一札の事

一 私儀^(昨カ)時七夜貴殿方へ罷越、私妻いよ儀私宅へ連帰り可申と存罷越候所、途中にて少御酒を呑候間、声高相成九兵衛殿・忠右衛門殿へ対し重々不埒の儀仕候段、全酒狂の上心得違仕、申分け無御座候、其節御立合被遊候御店の衆へ対、是又申分け無之、御公訴にも相成可申の所、御託^わ申入候所、御仲人中様御取扱を以、内分に被下成奉忝存候、依之向後相慎可申候間、一言の儀も無御座候、為後日の入置^(あやまり)申誤証文、依如件

文化六巳年六月十二日

四谷塩町耆丁目大助店

当 人 晋 藏

店請人 長左衛門

麹町十丁目長右衛門殿御店

九兵衛殿

御店の衆中

差上申一札の事

一 今十三日飯田町御葉遠^(國カ)へ被為

成、市ヶ谷御守殿へ御立寄被為 遊候に付、御成・還共私共町内御見通しに相成、町内別て火の元大切に仕、煙立申間敷候、二階窓ノ切、人差置不申様相守、其外御目障りの場所へ人一切差出し申間敷旨被 仰渡奉畏候、尤人留・人通しの儀は御差図次第可致旨被 仰渡、是又奉畏候、為其一札之奉差上候、依如件

文化六^(マ)巳三月十三日

四谷塩町壱丁目家主

月行事 大 助

五人組 儀兵衛

名主 孫右衛門

幼年に付

後見名主 茂八郎

高木直右衛門様御組

永田清左衛門様

宮本市右衛門様

乍恐以書付を奉申上候

一 四谷塩町壱丁目月行事大助申上候、四谷御門外北の方私共町内持場の内、御堀端通往来の儀は、是迄^(悪カ)道要敷相成候共、御堀土手より三尺程西の方へ引込、是迄^(得)道作り仕来り、私共町内持の心えに

罷在、尤是迄御堀は^(端)た通り少々宛の手入、道作りにて普請と申程の儀覚不申、所々帳面等くり出し候へ共、相見え不申、林町^(隣カ)麴町拾壱丁目并伝馬町壱丁目家主中寄合相尋候へ共、今年迄道作り覚不申、是迄町内持の心得に罷在候儀に御座候、此段御尋に付、右申上候儀に御座候、以上

文化七年三月廿日

四谷塩町壱丁目家主

月行事 大 助

(マ) 儀左衛門

御普請方

御役所様

養子証文の事

一 去る巳年五月中当 御屋鋪様西御門前へ、当才の娘子捨有之、御養育被遊置候所、右女子の義私養子娘に仕度奉願上候に付、御公儀様へ御伺い相済、私方へ被下成置、難有引取申候上は、大切に養育仕可申候、右捨子養育として金子式両被下置、慥に請取申上候、此捨子儀に付、当 御屋鋪様へは少も御苦勞相掛申間敷候、為後日の差上申養子証文、依如件

文化七年六月廿四日

四谷塩町老丁目大助店

貰人

仙之助

家主

大助

五人組

太良兵衛

名主茂八郎頼に付、代

治助

新段治郎様

山崎作左衛門様

乍恐以書附を奉願上候

一御屋鋪様西御門前へ去る巳五月中女子捨有之に付、御抱乳母御附被遊置候由請賜^(マ)り候に付、何卒右捨子私養子に仕度奉存候、尤私妻まさ儀は当年式拾三才に罷成、去る巳年十二月出生の悴儀は、安産十日余にて病死仕、外に娘悴等無御座候に付、事^(サカ)に自今共乳沢山出候間、右捨子貰請、娘に仕度奉存候、依之何卒私へ被下置候様家主加印、此段偏に奉願上候、以上

文化七年六月十七日

四谷塩町老丁目大助店

貰人

仙之助

家主

大助

紀伊守様御勘定所

不通養子証文の事

一我等実の悴金治良と申、当文化八末年九才罷成、貴殿方へ一生不通に養子に遣し申所実正也、然る上は向後金治良身分に付、此方共差構無之候、此上は貴殿方にて養育被成、身分取立頼奉候、向後御勝手次第、其節一言の儀申出間敷、親類一同相語^(マ)の上差遣し申候上は、何方より差構申者無御座候、若万ヶ一申者有之候は、加印の者罷出急度埒明け、貴殿方へ御苦勞相掛申間敷候、為後日の親類加印入置申一札、依如件

文化七年六月十三日

下谷黒門町伊兵衛店

仲人

藤兵衛

金治良父

与惣兵衛

左官金太良殿

一札の事

一貴殿御子息金治良殿当年九才に罷成候所、藤兵衛殿・長右衛門殿御世話を以、我等方へ一生不通に貰請申所実正也、然る上は向後我等方にて実子出生致候共、跡式家相続の儀は金治良へ相誤^(誤カ)り可申候、尤私方親類一同相談の上貰請候上は、外より若其節にも差構申者有之候は、親類共罷出急度申明、貴殿方へ少も御苦勞掛申間敷候、為後日の取替せ申一札、依如件

文化七年六月十五日

四谷塩町耆丁目大助店

貰人 金太良

仲人 与兵衛

与惣兵衛殿

入置申出世証文の事

一金五両者 但し文字通用金

右は我等去る辰年七月中無抛入用に付、達て申入借用致候所、追々返済残金五両有之候所、是迄^(マ)去巳年より長病相煩、家内不都合に相成候間、同町伝兵衛殿相頼度々難儀の由申上候へは、御承知被下成、病氣開^(マ)愈仕、病家医師相勤候様に相成候か、又は外役替等仕候は、早速返済可仕候、期日無しの御証文に被下成奉忝存候、拙者儀仕合^(マ)猶り次第早速返済可申上候、為後日の入置申出世証文、依如件

文化七年八月十一日

赤坂紀伊守内借主

島川 玄 丈

加印 伝兵衛

家主 大 助

伊勢屋小左衛門殿

差上申手形の事

一 此者 耆人

右は遠州秋葉山へ参詣仕度奉存候、依之何卒其御閑所無相違御通し被遊可被下候、為後日の差上申一札手形、依如件

文化七年八月十六日

江戸四谷塩町一丁目

家主 大 助

箱根御閑所

御役人衆中様

永代売渡申家屋鋪の事

一四谷塩町耆丁目北側東角より四軒目、表間口京間九間七寸六分、裏行町前の家屋鋪代金千貳百両に永代売渡し申代金槌に請取、則家屋鋪相渡し申所実正也、此家屋鋪に付、

御公儀様御事は不及申に上、諸親類共其外何方よりも差構申者無之候に付、名主并五人組加判為致候間、若又横合より違乱申者有之候は、此加判の五人組・名主何方迄も罷出急度埒明け可申候、為後日の永代家屋鋪売沽券状、依如件

文化七年十二月廿四日

四谷塩町老丁目

家屋鋪売主

もん

後見

八良兵衛

五人組

嘉兵衛

同

儀兵衛

同

太良兵衛

名主

孫右衛門

幼年に付、後見

名主

茂八良

おなを殿

後見五兵衛殿

家質証文の事

一四谷塩町老丁目北側東角より四軒目、表間口京間九間七寸六分、裏行町前式拾老間余、家屋鋪老々所持主もん後見八良兵衛所持の町屋鋪、此度家質証文を以金子貳百両おなを殿後見五兵衛殿より借用申に付、五人組立合吟味仕候所、

御公儀様御事は不及申上、諸親類其外何方よりも差構申者無御座候に付、五人組の者加判致、名主奥印相頼候上は、若横合より違乱申者有之候は、此加判の五人組何方迄も罷出、急度埒明け可

申、貴殿へ少も御苦勞相掛申間敷候、貸し主金子入用の節は、拙者共立合金子借替為相済可申候、万ヶ一相調不申候は、此家屋鋪為相渡可申候、為後日の入置申、依如件

文化七年十二月廿四日

家屋鋪持主

八良兵衛

(マ)

太良兵衛

(マ)

嘉兵衛

(マ)

儀兵衛

おなを殿後見

五兵衛殿

覚

一四谷塩町老丁目貴殿御所持の家屋鋪老々所、此度同町五兵衛殿へ家質に書入、金貳百両被 借請候に付、右沽券状老通我等方へ預り申置候、右金子追て返済の節、此手形にて引替相渡し可申候、其節に相成此書付相仕舞込候節、不相見え後日に出候共、反古に有之候、尤此手形を持、金銀借貸し兼て不相成候間、相用い候儀は一切致申間敷、為後日の相渡申一札、如件

文化七年十二月廿四日

四谷塩町老丁目支配

拾五番組

名主

茂八良

おもん殿

後見八良兵衛殿

家守請状の事

一此家守八良兵衛と申者、慥成者に御座候に付、我等身請人に罷立、貴殿御所持の家屋鋪家守に差置申所実正也、此者儀に付て如ヶ様の出入出来致候共、五人組の我等引請申、貴殿方へ少も御苦勞相掛申間敷

一御公儀様御法度の儀は不及申に、諸御触急度相守申可候、地代・宿賃の儀は毎月取集め、十日限りに亙ヶ月に銀六拾匁宛為相済可申候、若相滞候は、我等并に加印の五人組より立替為相済可申上候、為後日の家守請状、依如件

文化七年十二月廿四日

市ヶ谷左内坂町家持

家主	八良兵衛
下家主	大助
五人組	儀兵衛
同	嘉兵衛
同	太良兵衛

おなを殿

後見五兵衛殿

乍恐以書附奉申上候

一四谷塩町壱丁目月行事儀助申上候、当二月十一日市ヶ谷谷町より出火、私共町類焼仕、其後此節迄薦の者にて金五良と申者、外に金の字名の相付候名前の者無御座候、右私共御差紙にて被召出、被仰渡候間、別て米屋の裏々念入相調候所、右名前無之候に付、隣町麴町十一丁目・同拾貳丁目・十三丁目・伝馬町壱丁目・御簞笥町・市ヶ谷七軒町・坂町右八、九ヶ町相調候へ共、是又一向に無御座、依之其町々月行事御請書右申上候、以上

文化八年七月廿一日

四谷塩町壱丁目

月行事

五人組

儀助

大助

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書付を御帳附奉願上候

一四谷塩町壱丁目家主大助申上候、私店日雇稼罷在候市五良と申者、当未四拾歳に罷成、当月十八日姉さよ・甥治助を捨置不斗家出致、歸り不申、所々心当り相尋候へ共、行え知相不申、尤家内困窮に罷在候へ共、何も出入等も無御座候、何卒以御慈悲を御帳附奉願

上候、尤家材諸通具等姉さよへ被下成置候様奉願上候

文化八末年七月廿日

四谷塩町老丁目家主

御帳付願人

大 助

五人組

太良兵衛

同所伝馬町老丁目家主

店請人

作兵衛

右の通相調候所相違無御座候、以上

名 主

茂 八 郎

煩に付、代

太 七

(直年・町奉行)
小田切土佐守様

御 番 所 様

乍恐以書附御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目月行事安兵衛申上候、今朝六つ時頃年来五拾歳余に相見え候町人鉢の男、私共町内持場の内大下水傍駒寄中の貫より白き布を下け、首縊り相果罷在候を、見廻りに罷出、右見出し候に付、此段御訴奉申上候、御検使奉願上候、以上

文化八末年八月十三日

四谷塩町老丁目

月行事 安兵衛

五人組 喜兵衛

名 主 茂 八 郎

(鎮衛・町奉行)
根岸肥前守様

御 番 所 様

乍恐以書付を奉申上候

四谷塩町老丁目月行事

安兵衛申口

一私共町内持場の内に有之候大下水傍駒寄中の貫より、白木綿下た(マ)帯を下け、年来五拾歳余に相見え候町人鉢の男、首縊り相果罷在候を、今朝六つ半時頃町内定番人清助見出之、私共へ為相知候に付、早速罷出見届け、五人組・名主へ申聞、御訴申上候へは、御検使被成下置御尋に付、右申上候、以上

文化八末年八月十三日

同 町抱定番人

清 助申口

一私儀今朝六つ半時頃、町内相廻り候節、町内持場御堀端に有之候大下水傍駒寄中の貫より、白木綿下た(マ)帯様の布を下け、町人鉢の男首縊り相果罷在候を見出し候に付、早速月行事へ為被 相知候儀に御座候、尤其夜中時々合に見廻り候へ共、町内に物騒敷儀等

一切無御座候、右の者何時に何方より罷越、右躰首縊り相果候哉、一向不奉存候、此段御尋に付、右申上候、御聞濟偏に奉願上候、以上

文化八末年八月十三日

武州豊島郡柏木村分

四谷成子町

善兵衛店首縊り相果候新八店請人

忠 七申口

一私儀寛政三亥年四月中より、右首縊り相果候新八店請人に相立、同町喜之助店へ差置候所、新八儀此度四谷塩町老丁目大下水傍駒寄中の貫より、白木綿下^(マ)た帯を下け首縊り相果候所、右新八懷中に有之候四谷成子町自分名^(宛カ)当の書付老通有之候由にて、私へ四谷塩町月行事方より御聞合、前書の趣被仰候間、早速罷越候所、^(マ)兩御番所様御検使にて、私へ御尋御座候、右新八儀は御当地出生の者、身寄と申者一向に無御座候、私儀は寛政三亥年迄同渡世賃駕籠日雇仕罷在、同棒合の者喜助と申者に被 相頼、尤途中行合にも見合候者に御座候間、店請に相立、其後文化元子年喜助儀病死致、其後文化五卯年新八妻みね儀も病死致、独身者に相成、四谷内藤新宿旅屋手紙使の渡世仕罷在候所、^(一昨昨カ)一時十日朝罷出候より帰宅不仕、心当り聞合罷在候内、前書の私方へ塩町老丁目月行事より為知参り候間、罷越死骸相改候所、新八死骸に相違無御座候、

右躰に及儀は何祖懸り合等有之候哉、再応御尋に御座候へ共、外に心当りも無之、新八儀当年七拾余にも相成候間、老恙致渡世も難相成候間、常々私へ剃髮致度申聞候へ共、度々差留^(マ)見繼遣し、少々宛心附致候へ共、一躰^(マ)氣挾成者に御座候間、我々世話に相成候儀は氣の毒にも存候哉、全貧苦の迫りに及、右好末^(始カ)に相成候儀と、乍恐奉存候、死骸御見分けの節、私へも御見せ被遊被下候所、自分と首縊り相果候様子に御座候、死骸に付、疑敷儀無御座候、何分御慈悲奉願上候、右死骸引取、取片付遣し申度奉存候、是又偏に奉願上候、以上

文化八末年八月十三日

同所成子町家主

喜之助申口

一首縊り相果候私店新八儀、身分御尋に御座候間、左に申上候、右新八儀、私店へ寛政四卯年と覚候同町忠七世話を以店貸遣し、日頃身分実躰成者にて、渡世仕罷在候所、去る文化四卯年十一月中妻病死、独身者にて朝夕私方より心附遣し罷居候所、前書申上候忠七能存罷在、一躰^(マ)氣挾成者貧苦に迫り候哉、右躰首縊り相果候儀と乍恐相見え奉存候、尤新八死骸に付、怪敷儀一切無御座候、誠に自分と相果候儀と奉存候、何共御慈悲奉願上候、以上

文化八末年八月十三日

一首縊り相果候四谷成子町喜之助店新八死骸改、店請人并に家主

・名主立合人別相改候所、御当地出生、歳七拾貳才、但し身の

内疵并摺疵等無御座候、

右死骸を私共立合見分け仕候所、四谷御門外御堀端北の方、太下水際^{（マ、）}に有之候駒寄中の貫より、白木綿下た帶を結附、引こきに致し首へ掛け、駒寄を伝^{（タ）}下り候様子にて、太下水内へ下り相果罷在候、尤両の耳後口へ右布喰い入有之候間、自分と首縊り相果候様子に御座候、右新八の死骸に付、怪敷儀相見え不申、若書置等も有之候哉と為尋候へ共、一向無之候、懷中には外の書付有之候間、右写し持参仕候、以上

右の通り名主・家主・五人組并に身寄・店請人為立合、然^{（マ、）}と新八死骸相改細末申口、如件

文化八末年八月十三日

四谷塩町老丁目

月行事

安兵衛

五人組

喜兵衛

名主

茂八郎

武州豊島郡柏木村支配

四谷成子町善兵衛店首縊り相果候新八店請人

忠七

家主

善兵衛

五人組

孫兵衛

同所 相果候新八家主

喜之助

五人組 吉左衛門

右成子町支配仕候

柏木村名主

紋右衛門頼に付、代

喜兵衛

御番所様御検使

瀧田宇右衛門様

中山路五郎様

（挟み紙）

下け札

一駒寄 高さ土台より

貳尺七寸

但し土台より中の貫迄

高さ壹尺五寸五分

一駒寄土台より下水水際迄

壹丈壹尺

中貫より惣高さ水際迄

壹丈貳尺五寸五分

乍恐書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店豊吉と申者、時^{（昨力）}十日夜同町市右衛門店明き店後口の方にて、博奕鉢の儀致候由にて、火附盗

賊御改松浦大膳様御組御廻り先にて被 召捕候間、今日御慈悲願
店請人召連罷出度、此段御訴奉申上候、以上

文化九申年正月十一日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

家主 儀兵衛

店請人 源 八

根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主大助并麴町三丁目利右衛門店被 召捕候豊吉
店請人源八兩人奉申上候、豊吉儀^(昨力)時十日四谷塩町耆丁目市右衛門
店明き店後口の方にて博奕致罷在、当 御役所様へ御組御廻り先
にて被 召捕、誠に奉恐入候、何卒御慈悲を以御吟味相分り候は
ゞ、御赦免被 下成、私共へ御引渡被下成置候様、一同偏に奉願
上候、以上

文化九申年正月十一日

麴町三丁目利右衛門店

豊吉店請人

願人 源 八

家主 利右衛門

四谷塩町耆丁目家主

願人 大 助

五人組 太良兵衛

右御役加役の内は、御名前を書入、三下り書可申候

火附盜賊御改

松浦大膳様

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店豊吉と申者、^(昨力)時十日夜同町
市右衛門店明き家後口の方にて博奕致、火附盜賊御改松浦大膳様
御組御廻り先にて被 召捕候に付、御慈悲願に罷出度段、今朝御
訴申上置、右御役所へ罷出候所、豊吉儀御吟味中手鎖にて、私共
へ御預け被下成、追て御沙駄^(次力)可有之旨被 仰渡候間、此段御訴奉
申上候、以上

文化九申年正月十一日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 儀兵衛

豊吉店請人 源 八

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店豊吉儀当正月十日夜、同町市右衛門店明き家後口の方にて博奕致、火附盜賊御改松浦大膳様御組御廻り先にて被 召捕候に付、同十一日御訴申上置、御慈悲願上候所、豊吉御吟味中手鎖にて私共へ御預け被下成置候所、猶又時廿七日御差紙を以被 召出、豊吉儀入牢被 仰付、私共儀は猶又明廿八日可罷出段被 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化九申年三月廿七日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 儀兵衛

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店豊吉と申者当正月十日夜、同町市右衛門店明き家後口の方にて博奕致、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中手鎖にて私共へ御預け被下成置候所、一時廿六日御差紙にて時日罷出、^(昨カ)豊吉儀は帰牢被仰付、私共儀は今日可罷出段被 仰渡、此段時夕御訴申上置、右御役所へ今日罷出候所、豊吉儀博奕致候に付、重き敲の御仕置被仰付、私共へ御引渡し被下成、一件落着仕候間、此段御訴奉申上候、以上

文化九申年三月廿八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 儀兵衛

翹町三丁目利右衛門店

豊吉店請人 源 八

家主 利右衛門

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主市右衛門申上候、私店文治良并留五良悖勝五良、同店長五郎悖定五良右三人、^(昨カ)昨夜同店內明き家有之候後口の方にて博奕躰之致候由にて、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕候段奉恐入候、依之今日右御役所へ御慈悲願に罷出度、此段御訴奉申上候、以上

文化九申年正月十一日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 市右衛門

五人組 甚 八

御番所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町耆丁目市右衛門店勝五良母りん、同店定五良母とみ、文治郎妻きせ右三人申上候、文治良・定五良・勝五郎儀、^(昨カ)時夜当御役所様御組御廻り先にて被 召捕候段、誠に奉恐入候、何卒御慈悲を以御吟味相分り候は、御赦免被下成置、私共へ御引渡被下成置候様、偏に奉願上候、以上

文化九申年正月十一日

四谷塩町耆丁目市右衛門店

願人	文治良妻	き	せ
同	勝五良母	り	ん
同	定五郎母	と	み
家主		市右衛門	
五人組		甚	八

火附盜賊御改松浦大膳様

御役所様

乍恐以書付を奉願上候

一四谷塩町耆丁目家主市右衛門申上候、私儀^(昨カ)時十日家業向用事有之、夜に入歸り候所、私店明き家内にて、同店内文治郎并に同店留五良・粹勝五郎、長五郎・粹定五郎外式人の者共寄集り、博奕致罷在候所、当

御役所様御組御廻り先にて被 召捕、奉恐入候、平日博奕の儀仕

間敷段申付置候所、右妹^(始カ)末に及候段驚奉恐入候、向後急度相守候様可為仕候、毎夜時々見廻り候所、右夜の儀は前書申上候通り、留守中右子^(始カ)末有之候段、何分偏に御慈悲の様奉願上候、以上

文化九申年正月十一日

四谷塩町耆丁目家主

(マ、)
市右衛門
(マ、)
甚 八

火附盜賊御改松浦大膳様

御役所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主市右衛門奉申上候、私店留五良・粹勝五郎、長五郎・粹定五郎、同店文治郎右三人の者共外式人寄集り、同店内に明き有之候内にて、博奕致候所、私儀は稼業先より夜四つ時頃歸り候所、暮五つ半時火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕候に付、今朝当

御番所様へ御訴申上置、御慈悲願上候へは、右前書三人の者共御吟味中手鎖にて御預け被下、追て御沙駄^(次カ)可有之段被 仰渡、私儀は五人組へ御預け被 仰付候間、此段御訴奉申上候、以上

文化九申年正月十一日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 市右衛門

御番所様

五人組 甚 八

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主市右衛門申上候、当正月十日夜、私儀家業向に用事有之、夜四つ頃帰宅仕候所、右五つ時頃、私店明き家内にて、同店内文治郎并同店留五郎悴勝五良、同店長五郎悴定五郎外に人寄集り、博奕仕候所、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先に被 召捕、御吟味中手鎖にて私共へ御預け被 仰付有之、猶又今日被 召出、右三人一件の者共御留置に相成、私共儀は明廿八日可罷出の旨被 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化九年三月廿七日

四谷塩町老丁目家主

訴人 市右衛門

五人組 甚 八

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主市右衛門申上候、当正月十日夜、私儀は家業より罷歸り不申内、同店内留五郎悴勝五郎、同店長五郎悴定五郎、同店文治郎外式人都合五人の者共、同店明き家内にて博奕仕、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中手鎖

にて御預け被 仰付有之候所、猶又時廿七日被 召出、定五郎、勝五良、文治良三人の者御留被 置、私儀は今日被 召出、前書三人の者共博奕致候に付、重敲御仕置被 仰付、私共へ御引渡し被成下、私儀平生申付方行届き不致方に付、急度御 置被遊、一件落着仕候間、此段御訴奉申上候、以上

文化九年三月廿八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 市右衛門

五人組 甚 八

根岸肥前守様

御番所様

差上申一札之事

一四谷塩町老丁目家主大助差出し候、私店に罷在候善藏と申者、白銀職仕、貴殿へ御内談の上、其御地面内拝借仕、少々の家作相立、当分の内仮住居仕、猶又追て又候武家方へ相掾り居主相立、右の趣にて御願御出し被下候様被 仰聞奉畏候、若又何方よりも掛り合等之申参り候は、右善藏儀仮住居の内は我等の店へ引取、貴殿は勿語御組屋鋪へ少しも御苦劳相掛申間敷候、此段被 仰渡奉畏候

御公儀様御法度の儀は申に不及、火の元別て大切に相守可申候、

并に御組の御作法相背申間敷候、依之為後日の善蔵引請証文如件
文化九戌年四月十三日

四谷塩町耆丁目家主

引請人 大 助

小松祐左衛門殿

御組合衆中様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目儀助店湯屋新八、同町大助店磯五郎兩人申上候、
磯五郎儀時^(昨カ)夕七つ時頃右新八方へ入湯に罷越、メリ無之戸棚の内
に脱ぎ置候木綿藍堅^(綿カ)島^(マ)袷^(マ)裏花色木綿継々^(マ)耆つ、浅留横堅^(後カ)小弁慶綿
入耆つ但し右裏花色木綿^(マ)、堅^(綿カ)島^(マ)木綿単物耆つ、メ三品紛失
仕、右戸棚の跡内に有之候木綿継々^(マ)古綿入耆つ并に太織^(綿カ)島^(マ)紬帶、
真中^(綿カ)銭三百八文、右品残り有之候間、後々相改め候所、取違候者
も無之、所々聞合候へ共、相知れ不申候に付、右品持参此段御訴
奉申上候、以上

文化九申年十一月廿四日

四谷塩町耆丁目儀助店

訴人 新 八
家主 儀 助

同 町大助店

根岸肥前守様
御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目儀助店湯屋新八并に同町大助店磯五郎兩人奉申上
候、当月十日夕七つ時頃新八方へ磯五郎娘まる儀、入湯に罷越、
メリ無之戸棚へ入置候風^(マ)純子^(マ)長楽寺小紋、女帯耆筋紛失仕候に付、
此段御訴奉申上候、然に御訴の段延引仕候段心得違仕奉恐入候、
此段御聞濟、偏に奉願上候、以上

文化九申年十二月廿四日

四谷塩町耆丁目儀助店

訴人 新 八
家主 儀 助

同 町大助店

訴人 磯 五 郎
家主 大 助
名主 茂 八 郎

小田切土佐守様

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目太良兵衛店薬湯渡世文蔵并に市ヶ谷田町四丁目家持文右衛門煩に付、代清治郎兩人奉申上候、右文右衛門義、当月六日薬湯文蔵方へ入湯に罷越、見世先へ脱置候御納戸茶太織裏花色絹綿入耆つ、木綿長楽寺小紋裏花色絹綿入耆つ、太織^(綿カ)島^(綿カ)胴着^(着カ)はき、但し裏花色絹胴^(着カ)き耆つ、兜羅綿裏花色絹袷羽織耆つ、都合四品右入湯に罷越、暮六つ時頃紛失仕候へ共、是又心得違仕、御訴延引仕、何共不調法至極奉恐入候、然る所右品の儀は無宿岩助と申者盗取候由、右岩助儀は当御番所様御組御廻り先にて被 召捕、申立候由^(マ)請^(マ)賜り及候に付、御訴奉申上候、何分延引仕候段、偏に御慈悲奉願上候、以上

文化十酉年二月十九日

四谷塩町耆丁目太郎兵衛店薬湯

訴人 文 蔵

煩に付、代

文 六

家主 太郎兵衛

五人組 大 助

名主 茂八郎

市ヶ谷田町四丁目家持

文右衛門煩に付、代

訴人 清治郎

五人組 孫 七

名主 左 内

根岸肥前守様

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店市右衛門と申者、^(昨カ)時^(昨カ)夕^(昨カ)近辺へ用事有之罷出候所、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて、子細不知被 召捕候に付、今日御慈悲願に罷出度奉存候、此段御訴奉申上候、以上

文化十酉年三月八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

小田切土佐守様

御番所様

乍恐以書附を奉申上候

一 四谷塩町耆丁目大助店市右衛門妻なを申上候、私夫市右衛門儀^時七日夕方、近辺へ罷越候様申罷出候所、当御役所様御組廻り先に、被 召捕候段奉恐入候、何卒御慈悲を以御吟味相分り候は、御赦免被成下、私共へ御引渡被 下置候様、一同偏に奉願上候、以上

文化十四年三月八日

四谷塩町耆丁目大助店市右衛門妻

願人 な^(ア、)か

家主 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

今朝御訴来

一 四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀^時七日近辺へ罷越候所、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先に被 召捕候に付、右御役所へ御慈悲願に罷出度段、今朝御訴置罷出候所、市右衛門儀は同所伊賀町長兵衛店藤吉所持の土藏差掛にて、博奕致候段被仰渡奉驚入候、市右衛門儀は御吟味中手鎖にて、私共へ御預け被仰付、追て御沙駄^(沙カ)可有之被 仰付候間、此段御訴奉申上候、以上

文化十四年三月八日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

御番所様

乍恐以書附を奉願上候

一 四谷塩町耆丁目大助店市右衛門妻なを奉申上候、夫市右衛門儀当日、同所伊賀町長兵衛店藤吉所持の土藏差掛にて博奕仕、右吟味中手鎖にて御預け被 仰付、今日御^{封カ}対印御改に召連罷出可の所、熱氣強り癪差起り、召連罷出候儀は難相成候間、召連不申何分御慈悲を以此段御聞濟、偏に奉願上候、以上

文化十四年三月十一日

四谷塩町耆丁目大助店市右衛門妻

願人 な を

家主 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書付を奉願上候

一 四谷塩町耆丁目家主大助奉申上候、私店市右衛門儀当月七日、同所伊賀町長兵衛店博奕一件に付、御吟味中手鎖にて私共へ御預け

被 仰付置候、然る所右市右衛門儀今日御封印御改め当日に付、召連可罷出の所、当十一日申上候通、其後熱氣相増候て、食事等も少々にて、頭痛仕打臥罷在、召連罷出候儀難相成奉存候、何卒御慈悲を以、養生中手鎖御有豫被 下成置候様奉願上候

文化十酉年三月十五日

四谷塩町耆丁目家主

願人 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改め

御役所様

乍恐以書附を奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀当月七日、同所

伊賀町長兵衛店にて博奕致当

御役所様へ被 召捕、御吟味中手鎖にて、私共へ御預け被下成置候所、当日より熱氣出、病牀の儀は陰症傷寒煩にて、当十一日并に今日共御封印御改に罷難出候に付、時十五日手鎖御有豫願上候へは、今日 御見分の上、手鎖御免被下成置、格別御慈悲と一同難有仕合に奉存候、然るに市右衛門の病中容牀の儀は、一件一同御封印御改め当日、以書付を可申上段、私共今日御差紙にて被召出、被 仰渡奉畏候、依之御請書奉差上候、以上

文化十酉年三月十六日

四谷塩町耆丁目家主

(マ)

大 助

(マ)

太良兵衛

火附盜賊御改松浦大膳様御組

竹之内宇之助様

右宇之助様被 仰候には、御組林町に付、右御役所へ可呼出の所、見分の趣右書付請取候間、若聞合有之候は、役所に罷出候様に申出置様被 仰候

御尋に付以書附を奉申上候

一 私儀四谷伊賀町御持組神尾豊後守様御組、渡辺小三良地借町医師

筒井泰元奉申上候、同所塩町耆丁目大助店市右衛門と申者、当日

日夜より病氣の由、右町役人中より療治之相頼候に付、同日十三

日私儀罷越、容牀見候所、殊の外熱氣強り、見立の儀は陰症の傷

寒と見え候間、加減の煎薬相用申候、右は私療治方并市右衛門容

牀御尋に付、以書付此段奉申上候、以上

文化十酉年三月十六日

四谷伊賀町

御持組神尾豊後守様御組

渡辺小三郎地内

町医師

筒井 泰元

火附盜賊御改松浦大膳様御組

内山三之助様

(マ) 竹内宇之助様

乍恐以書付を奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀、当七日同所伊賀町長兵衛店にて博奕致、御吟味中、私共へ手鎖御預け被仰付罷在候所、十日夜より熱氣強り、一向食事給不申候に付、同十五日養生中手鎖御有豫^(マ)之願上候へは、明十六日御見分の上、市右衛門手鎖御免被下成置、難有仕合に奉存候、尤御^(封カ)対印御改日一件一同罷出候節、市右衛門病氣^(マ)養^(マ)牀以書付を申上候様被 仰渡奉畏候、依之医師へ養^(マ)牀相尋候所、当十六日御見分の節よりも、少々は快敷方に相見え候へ共、熱氣取^(マ)る兼候由、医師被申之候、尤食事飯湯計り少々相通り申候、此段奉御訴候、以上

文化十酉年三月廿一日

四谷塩町老丁目家主

(マ)

大 助

(マ)

太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀、当七日同所伊賀町長兵衛店博奕一件に付、御吟味中手鎖にて、私共へ御預け被仰付有之候所、当十日夜より傷寒相煩、熱氣強り食事一向給不申候に付、同十五日養生中手鎖御有豫^(マ)願上候へは、同十六日御見分の上、手鎖御免被下成置、難有仕合に奉存候、尤御^(封カ)対印御改当日、市右衛門容牀申上候様被 仰付候間、其後追々申上、今以熱氣去^(マ)る兼、逆昇仕罷在、尤時^(昨カ)廿日より少々食事給、快方之御座候、此段御訴奉申上候、以上

文化十酉年三月廿六日

四谷塩町老丁目家主

訴人

大 助

五人組

太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀、先月七日同所伊賀町長兵衛店博奕一件に付、御吟味中手鎖御預け被 仰付候所、右市右衛門儀同十日夜より傷寒相煩候に付、養生中手鎖御有豫^(マ)願上候へは、同十六日御見分の上、御免被下成置、難有仕合に奉存候、尤市右衛門容牀の儀御^(封カ)対印御改当日、書附を以申上候様、被仰渡候に付、其後追々申上置候所、追々少々宛快敷方に御座候へ

共、熱氣去る兼罷在候、尤食事は此節少々宛給申候、此段右御訴
奉申上候、以上

文化十酉年四月朔日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀、先月七日同所
伊賀町長兵衛店博奕一件に付、御吟味中手鎖にて、私共へ御預け
被 仰付罷在候所、同十日夜より傷寒相煩候に付、養生中手鎖御
有豫願上候へは、同十六日御見分の上、手鎖御免被下成置、難有
仕合に奉存候、尤市右衛門容鉢の儀は一、六御対印御改日当日、
申上候様被 仰渡候間、追々申上置候、此節追々快敷方には御座
候へ共、今に以熱氣少々有之方附不申、尤食事は相応に給申候、
此段御訴奉申上候、以上

文化十酉年四月六日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改
御役所様

同十一日 同十六日 同廿一日 同廿六日右同断訴

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店市右衛門儀、当三月七日同
所伊賀町長兵衛店博奕一件に付、右市右衛門御吟味中手鎖にて、
私共へ御預け被 仰付罷在候所、同十日夜より傷寒相煩候に付、
養生中手鎖御有豫願上候へは、同十六日御見分の上、手鎖御免被
下成置、難有仕合に奉存候、尤一件御対印御改め当日市右衛門容
鉢可申上段被 仰渡奉畏、追々申上置候所、追々病氣皆勇仕候間、
此段御訴奉申上候、以上

文化十酉年五朔日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一 四谷塩町耆丁目家主大助申上候、私店市右衛門と申者、当三月七

日同所伊賀町長兵衛店藤吉所持の土蔵差掛にて博奕仕、火附盜賊改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中手鎖にて、私共へ御預け被 仰付候間、其節御訴申上置候、其後右市右衛門儀病氣に罷在候所、此節病氣皆勇^(マ)仕候に付、前書場所にて博奕仕候に付、重き敲御仕置被 仰付、私共へ御引渡被下成候間、引取申候、右一件落着仕候、此段御訴奉申上候、以上

文化十酉年五月三日

四谷塩町老丁目家主

訴人 大 助

五人組 太良兵衛

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷伊賀町家主長兵衛申上候、私店藤吉と申者、時^(昨カ)七日老母差置、家業に罷出候留守へ、神田豊島町家主不知金蔵と申者外五人の者共罷越、藤吉所持の土蔵差掛にて、博奕鉢の儀致候由にて、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて、六人の者共被 召捕候段、藤吉儀夕方家業より罷歸り請^(マ)賜り驚奉恐入候、依之今日右御役所へ御慈悲願に罷出度、此段御訴奉申上候、以上

文化十酉年三月八日

四谷伊賀町家主

御番所様

訴人 長兵衛
五人組 由左衛門

乍恐以書附を奉申上候

一四谷伊賀町長兵衛店藤吉奉申上候、私儀^(昨カ)時^(マ)七日服呉物売買仕家業に罷出、老母差置候所、兼て知人神田豊島町家主不知金蔵と申者外五人の者共、金蔵友達の由申参り、私留守に土蔵差掛にて博奕仕、当 御役所様御組御廻り先にて被 召捕候段、同日々方帰宅仕請^(マ)賜り及、驚入奉恐入候、右博奕の儀は兼々家主・月行事より申付有之候所、右鉢の儀有之奉恐入候、何分御慈悲偏に奉願上候、以上

文化十酉年三月八日

四谷伊賀町長兵衛店

願人 藤 吉

家主 長兵衛

五人組 由左衛門

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

今朝御訴来

一四谷伊賀町家主長兵衛申上候、私店藤吉と申者、時七日家業に罷出、老母差置候所、留守中兼て知人に有之候神田豊島町家主不知金藏外五人の者共罷越、藤吉所持の土藏差掛にて博奕致、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて、被 召捕候段請賜り候間、今朝御訴申上置、右御役所へ御慈悲願に罷出候へは、藤吉儀は私共へ御預け同様に相心得、追て御沙駄可有之段被 仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化十四年三月八日

四谷伊賀町家主

訴人 長兵衛
五人組 由左衛門

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷伊賀町家主長兵衛申上候、私店藤吉と申者、当三月七日家業に罷出、老母差置候留守へ、兼て知人神田豊島町家主庄右衛門店金藏と申者外五人、藤吉所持の土藏差掛にて博奕仕罷在、火附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中夫々へ手鎖御預けに相成、私店藤吉儀は御預け同様に相心得之被 仰渡有之候所、猶又今日被 召出、一件の者共儀は博奕致候に付、重き敲の御仕置被 仰付、私店藤吉儀は兼て家主より度々御触も有之、留守中とは乍申博奕為致候に付、七貫文過料被 仰付、一件落着

仕候間、此段御訴奉申上候、以上

文化十四年五月二日

四谷伊賀町家主

訴人 長兵衛
五人組 由左衛門

御番所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主茂兵衛申上候、私店与治右衛門と申者、時七日同所伊賀町辺へ罷越候所、細子^(マ)は不知、火附盜賊御改め松浦大膳様御組御廻り先にて被 召捕候段請賜り及候間、今日私共御慈悲願に罷出度、此段御訴奉申上候、以上

文化十四年三月八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 茂兵衛
五人組 惣兵衛

御番所様

乍恐以書付を奉申上候

一四谷塩町老丁目家主茂兵衛申上候、私店与治右衛門と申者、時七日同所伊賀町辺へ罷越候由申置、罷出候所、当 御組御廻り先に

て被 召捕候段、奉恐入候、然るに与治右衛門儀は平生実跡成者にて、家主相稼候者にて御座候間、何卒御慈悲を以、御吟味相分り候は、私共へ御引渡御猶免被下置成候様、偏に奉願上候、以上

文化十四年三月八日

四谷塩町老丁目家主

願人 茂兵衛

五人組 惣兵衛

火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

今朝御訴来

一四谷塩町老丁目家主茂兵衛申上候、私店与治右衛門と申者、時七
日同所伊賀町長兵衛店藤吉所持の土藏差掛にて博奕仕候由、火附
盜賊御改め松浦大膳様御組廻り先にて、与治右衛門儀被 召捕、
御吟味中手鎖にて私共へ御預け被下成置、追て御沙駄可有之段被
仰渡候間、此段御訴奉申上候、以上

文化十四年三月八日

四谷塩町老丁目家主

訴人 茂兵衛

五人組 惣兵衛

御番所様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主茂兵衛申上候、私店与治右衛門と申者、当三
月七日同所伊賀町長兵衛店藤吉所持土藏差掛にて博奕仕罷在、火
附盜賊御改松浦大膳様御組廻り先にて被 召捕、御吟味中私共
へ手鎖御預け被 仰付有之候所、猶又今日被 召出、与治右衛門
儀博奕致候に付、重き敲御仕置被 仰付、御引渡し被下成置候間、
私引申候間一件落着、此段御訴奉申上候、以上

文化十四年五月三日

四谷塩町老丁目家主

訴人 茂兵衛

五人組 惣兵衛

小田切土佐守様

御番所様

以書附を願上候

一四谷塩町老丁目家主大助并に五人組・月行事差添奉願上候、去る
寛政十年年十二月中頂戴仕、今年迄町内見廻り相勤罷在候紺連紬
火事羽織大破に及、修復にも相成兼候に付、去る文化七年年可願
上と存罷在候所、同未閏二月五日市ヶ谷谷町出火にて、私共町内

一同類焼仕候に付、差控え自分羽織を以役場・町内共相勤罷在候儀に御座候、此度何卒先年頂戴の紺連袖火事羽織・腹掛共新き頂戴仕度奉存候、何卒此段御聞濟被下置候様、偏に奉願上候、以上

文化十一年三月廿一日

四谷塩町老丁目家主

願人 大 助

五人組 儀兵衛

月行事 吉左衛門

笹屋八良兵衛様

御請申一礼の事

一先年町火消役被 仰付、御府内一統いろは組々人足頭取役の儀は、当く組の儀は、頭取六人に被仰付、当時は私共被仰付、相勤罷在候、然る所是迄夜分頭取目印とて、長灯(マ)燈く組印老人に一と張つゝ御渡し置被成下、尤張改の度年に式度宛、蠟燭の儀は、銘々勤候御町内より頂戴仕、用ひ来り候間、多分頭取灯(マ)燈の儀はと張ケ式張にて外組と相違、六人相添候儀無之、尤小火の分は蠟燭老丁にて相済候間、灯(マ)燈数相見え、大火時刻にも相成候へは、惣々御町内へも申上不被候間、自分都合仕相用罷在候間、数相見え兼、又は夜深急出等の節は、蠟燭不持合せ支(自然カ)前と頭取共罷出候哉、相見え不申、依之以来蠟燭代并に灯(マ)燈新き張替共、惣入高御見積り

被成下、私共仲間六人数不揃にても、六人分老ケ年五両に御定め願上候へは、代金四両に御定め被下成候様、御組合町々御評儀(マ)の上、右の通に被 仰付、老ケ年に七月六日、十二月廿五日両度に御渡し被下成置候様、被 仰聞候、此段奉畏候、猶又火出役の儀も出清致候様、仲ヶ間共申合、若病人等御座候節は、差支等無之様相勤、以来右金高より増願等、一切仕申間敷候、為後日の入置申御請証文、依如件

文化十二年亥年十月十日

く組頭取役

麴町拾三丁目 与五郎印

御簗筒町 五良兵衛

塩町式丁目 万 吉

伝馬町式丁目 久治郎

く組惣町々

御月行事衆中様

(仕カ)
龍土水御月番

御行事衆中様

(仕カ)
龍土水月番

忍 町

伊勢屋 伊兵衛様

本屋 佐兵衛様

以来何事に不寄、く組町火消惣町割附の事

一町火消く組龍土水被^(吐カ) 下置、老ヶ月諸入用縦は錢拾六貫四百廿四文、是を人数面割三百七拾七人に割附、老人分錢四拾貳文宛、是を四谷く組武家方持町家鋪分^(マ)へ、面割七拾五人分を出錢為致、残り人面三百貳人分錢高を、四谷く組町人持町家鋪分^(マ)へ小間割に致可申候、右は町火消被 仰付候火消人足数共同断、く組火消人足数書上、人数高に三百七拾七人に割、高拾六貫四百廿四文、老人分錢四拾貳文宛、是を

一四谷南北伊賀町分 貳拾七人分持

一 御簞笥町 貳拾人分持

一 坂町上の町 八人分持

一 坂町下の町 九人分持

一市ヶ谷本村町 拾人分持

一御簞笥了覺寺門前^(字カ) 老人分持

割 四拾貳文也

メ面割人数七拾五人分 武家持町屋鋪

此錢高 三貫貳百七拾八文

町人持町屋鋪面割三百貳人分を拾貳ヶ町

小間割に相成候事、右小間割町小間左に印^(マ)

面割 三百貳人分 町人持町屋鋪の分

此錢高 拾三貫百四拾文 是を小間数

一麴町拾老丁目 小間数 百拾八間半

此錢^(マ)

一麴町拾貳丁目 小間数 百四拾三間半

此錢^(マ)

一麴町拾三丁目 小間 百八間老尺一寸六分

此錢^(マ)

一四谷伝馬町老丁目 小間 九拾老間半

此錢^(マ)

一 伝馬町新老丁目 小間 七拾七間

此錢^(マ)

一 伝馬町貳丁目 小間 百四拾三間半 六寸八分

此錢^(マ)

一四谷伝馬町三丁目 小間 百四拾九間半貳尺貳寸

此錢^(マ)

一 塩町^(虫)「^(損)」目 小間 百四拾三間貳尺 六分

此錢^(マ)

一 塩町貳丁目 小間 百拾老間

此錢^(マ)

一 塩町三丁目 小間 百六拾四間 三寸

此錢^(マ)

一市ヶ谷七軒町 小間 貳拾七間 貳寸

此錢^(マ) 〇

一四谷忍町 小間 百四拾貳間半

此錢^(マ) 〇

メ右惣町小間高 千百四拾軒^(マ) 〇に相成候

錢町人持町屋鋪の分 拾三貫百四拾文

右は面割三百貳人分 但し一人分割四拾貳文宛

前書武家方持町屋鋪 七拾五人分

三貫貳百七十八文

兩様都合メ拾六貫四百貳拾四文 惣掛り高

文化十^(虫損)「」月廿五日

龍土水月番 忍 町

月行事 佐兵衛

掛り行事 伊兵衛

塩老御行事大助様へ写書

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主月行事大助申上候、私共町内持場の内、四谷

御門外北の方、大下水上板の間に、時廿六日夜四つ半時頃、右

場所に当才に相見え候男子、衣類木綿茶堅島^(綿カ)つき、拾老枚致着、

捨籠在候所、右月行事町内見廻りに罷越見出し候間、捨子へは乳

を付置、此段御訴奉申上候、以上

文化十二亥年八月廿七日

四谷塩町老丁目

月行事 大 助

五人組 太良兵衛

拾五番組の内

名主 孫右衛門

御番所様

差上申御請書の事

一四谷塩町老丁目月行事大助御請申上候、私共町内持場の内、四谷

御門外北の方、大下水上板の間に時廿六日夜四つ半時頃、当才

に相見え候男子、衣類木綿茶堅島^(綿カ)つき、拾老枚致着、捨有之

候を、月行事大助儀町内見廻りに罷出、右見出し取上、右捨子へ

は乳を附置、此段今朝御訴申上候へ共、右捨子儀養育、拾才に罷

相成候迄は私共五人組へ御預け被 仰付奉畏候、右捨子儀若相煩

等の節は、早速御訴、容赦之可申上段被 仰渡、是又奉畏候、依

之御請書の奉差上候、依如件

文化十二亥年八月廿七日

四谷塩町老丁目

月行事 大 助

五人組 太良兵衛

御奉行所様

大 助殿

一札の事

一此度其元様御町内に、当八月中捨有之候当才の男子、当町幸助殿御店彦兵衛殿御世話を以、私方へ右捨子拾才に罷成候迄は御預け被下、慥に御預り申上、然るに私妻いね儀は乳沢山に御座候間、大切に養育仕可申候、尤養育料として金三両者御差添被下成置、慥に金子請取、右男子捨子の儀は、拾歳に罷成候上は、私方へ被下切に被成置の御約速奉承知候、右捨子私共養子に可仕存候に付、私親類一同承知の上、前書彦兵衛殿相頼申上候間、万一此悻病身に相成候か、又は氣に入不申由にても可相返す存、彼是等申間敷候、諸事等閑無是様心附け、養育可仕候、若又此悻儀幼年の内大病相煩候は、早々貴殿方へ為御知可申上候、為後日の入置申一札、依如件

文化十二亥年十月十六日

市ヶ谷谷町 治吉店

貰預り人 三五郎

四谷塩町壱丁目幸助店

請人 彦兵衛

同店

世話人 権 八

四谷塩町壱丁目御行事

以書附を申上候
右は差出し

四谷塩町壱丁目大助店磯五良母

右の者今日御差紙に付、召連罷出申候

亥八月五日

火附盗賊御改松下河内守様
(保綱)

御役所様

乍恐以書附を奉申上候

一四谷塩町壱丁目大助店磯五良母ます申上候、私悻磯五良儀日雇稼仕罷在候所、先月十日町内知人より相頼れ手紙使にて、三州辺迄罷越、尤私儀は当三月中迄市ヶ谷谷町金子源十郎様御屋鋪へ水仕奉公仕罷在、同御屋鋪相勤罷居候住所・親元不知そのと申女、同奉公の好身にて、去る戌年八月中鼈甲の櫛式枚売払度由相頼候間、日々罷越候小間物売へ売遣し可申段申候へ共、その申候には、当御屋鋪へは、当春より様役五ヶ月程に候間、格別之買人に知人も無之候間、私へ申暮候様申に付、名・住所不知小間物売へ、代金

式、三步^(分カ)に売遣し、代料覚不申、右代金もそのへ其場にて不殘相渡し申候、然る所右其儀此節當

御役所様へ被 召捕候に付、私儀被 召出、此段御尋に付、右好末奉申上候、何分御慈悲偏に奉願上候、以上

文化十二亥年八月五日

四谷塩町老丁目大助店磯五郎母

ます

家主 大 助

五人組 太良兵衛

火附盜賊御改松下河内守様

御役所様

差上申御請書の事

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店磯五良母ますと申者、去る文化十一戌年十月中迄武家方水仕奉公仕罷在候、右御屋鋪同奉公相勤罷居候親元不知そのと申女、相頼候に付、私店ます儀その頼^(仕脱カ)に、せ龜甲の櫛式枚売払遣し候所、右櫛の儀は紛失の品の由、時^(得)四日御差紙にて今日被 召出候所、ます儀は私共へ御預け同様に相心え可罷在段被 仰渡、右櫛売払先小間物屋名・住所も不存候に付、右櫛売払高代金三步^(分カ) 金納被 仰付、両様奉畏候、何卒今日より金納五日の間御日延奉願上候、ます儀御用の節は、何時成共召連罷出申候、為後日の差上申一札、依如件

文化十二亥年八月五日

四谷塩町老丁目家主

大 助

五人組 太郎兵衛

火附盜賊御改松下河内守様

御役所様

乍恐以書附を御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大助申上候、私店磯五郎と申者母ますと申女、去る文化十四年三月中より市々谷辺武家方水仕奉公仕罷在候内、同御屋鋪に相勤罷居候親元不知そのと申女、去る戌年八月中黒龜甲櫛式枚売払度由申に付、時々右御屋鋪へ罷越候小間物売人へ代金三步^(分カ)に売払、尤代金不殘其節そのへ相渡申候由、然る所今日火附盜賊御改松下河内守様御役所より急御差紙にて被 召出候に付、罷出候所、右その儀被 召捕罷在、前書櫛二枚右売暮候様相頼候段申立の趣相違も無之哉の御尋に付、相違無之の段申上候へは、小間物売人名・住所も不存者へ売遣し候段不行届致方に付、櫛代金三步^(分カ)金納被 仰付、ます儀は家主へ御預け同様に相心え罷在様被 仰渡、追て御沙駄可有之被 仰渡候、此段御訴奉申上候、以上

文化十二亥年八月五日

四谷塩町老丁目家主

(マ)

大 助

(マ)

太郎兵衛

(氏紀・町奉行)
岩瀬加賀守様

御 番 所 様

乍恐以書付を御訴奉申上候

一 四谷塩町巷丁目家主大助申上候、私店磯五郎母ます儀、去る文化
十酉年三月中より市ヶ谷辺武家方水仕奉公仕罷在候内、同勤罷居
候親元不知そのと申女、去る戌年八月中黒鷲甲櫛式枚売払度相頼
候に付、右御屋鋪へ日々罷越候名・住所不存小間物売へ代金三歩
に売払、代金不残そのへ相渡し申候所、右その儀当八月中火附盜
賊御改松下河内守様へ被 召捕罷在、私店磯五良母ます儀、先月
五日急御差紙にて被 召出、御尋に付、右好末申上候へは、小間
物売名・住所も不存、櫛式枚売遣し候段、不行届ヶ致方に付、代
金三歩金納被 仰付、ます儀私共へ御預け同様心得罷居候様被
仰渡有之候、其節此段八月五日御訴申上置、然るに今日猶又被
召出、盜賊致候その儀は堅牢の上、御引渡しに相成、私店磯五郎
母ます儀は御 無御座、一件落着仕候、此段御訴奉申上候、以上

文化十二亥年九月廿二日

四谷塩町巷丁目家主

訴 人

大 助

五人組

太郎兵衛

岩瀬加賀守様

御 番 所 様

入置申一札の事

一 此度貴殿御店内三味線稽古所被致喜代三良殿、一時十八日夜酒狂
の上にて心え違仕、我等外に両三人にて御家内打擾し候段、重々
申分け等も無御座候、其節御店の衆へ対し手向等仕候段、毛頭申
訳け無之、御公訴にも可被遊の所、四谷中御仲人衆を以御詫申入
候へは、御了簡被下忝存候、然るは向後急度相慎可申候、万ヶ一
右牀の儀有之候は、仲人共々如ヶ様にも可被 仰立候、其節一
言の儀申間敷候、此上一言の儀無御座候、為後日の右入置申証文、
依て如件

文化十三子年四月廿一日

四谷塩町巷丁目

当 人

源 七

仲 人

喜 太 良

御店の衆中様

喜代三郎殿

乍恐以書付を御届け奉申上候

一 四谷塩町老丁目大助店磯五良申上候、去る文化九申年八月中、当御組内根津清左衛門様口入を以、御玄関御番秋山五兵衛様外御三人へ、御蓮印証文にて金子拾三兩御用立置候、右御内松村清八様分は相済、関根伝左衛門様御請人にて前書秋山五兵衛様へ元金五兩、此利銀貳兩と銀五匁、都合金七兩と銀五匁、又候外に、元金六兩此利銀分貳兩貳歩と銀五匁、此分都合八兩貳歩銀五分右二口メ金拾四兩貳歩と銀拾匁、又外御名前分元金五兩、此利銀貳兩貳歩と銀五匁、此都合七兩貳歩と銀五匁、此分は御同役根津清左衛門去る文化十二亥年七月中御病死、御存生の節、私方へ御濟方の金子、右秋山五兵衛様へ御渡し置候段被 仰聞候、猶又同月五兵衛様より此段被 仰聞有之候へ共、是迄一向御返済無之、度々御掛合御催促仕候へ共、埒明き不申、難儀至極仕、無是悲此段奉申上候、何卒御「」秋山五兵衛様被 召呼、此節金子不殘不「」候様、被 仰聞被下置候様奉願上候、以上
メ一金高貳拾貳兩銀拾五匁 相滞

文化十三子年十二月十四日

四谷塩町老丁目大助店

貸し主 磯五郎

家主 大助

黒柳茂助様

乍恐以書附御届け奉申上候

一 四谷塩町老丁目大助店磯五郎申上候、私儀去る文化九申年八月中、当御支配御小人組黒柳茂助様御組根津清左衛門様口入を以、御組内
御本丸御玄関御番秋山五兵衛様へ、御組内御蓮判にて金子御用立置候所、外御連中の分は相済、秋山五兵衛様分元金五兩此利銀貳兩と銀五匁、外に金六兩と此利銀貳兩貳歩と銀五匁、都合金拾五兩貳歩と銀拾匁、又外に御同役根津清左衛門様へ、元金五兩と此利銀貳兩貳歩と銀五匁御引請分、右は根津清左衛門様去る文化十二亥年七月中病死、御存生の節、証文御連印に付、御返済金秋山五兵衛様へ御預け被成置、其節清左衛門様并に五兵衛様私へ被 仰聞候、右借主清左衛門様其節被 仰候には、其月より我か分利銀は今月より差出し不申由被 仰聞候、右御預け金も御返済無之、度々御掛合御催促仕候へ共、埒明き不申、難儀至極仕、無是悲此段申上候、何卒秋山五兵衛様此節金子返済仕候様、被 仰付被下置候様奉願上候、以上

文化十四丑年三月十一日

四谷塩町老丁目大助店

金主 磯五郎

家主 大助

一元金拾六兩

此利銀六兩と銀拾五匁

(マ、) 守様

御役所様

入置申御礼一札の事

一私儀是迄貴殿へ塗師手間職に差置被下候所、本国表へ罷越度奉存候に付、請人に私儀御渡可被成段被 仰聞候へ共、御当地には身寄又は知人等無御座候に付、御礼「^(虫)」入置罷越申候、向後は何方よりも一言の儀申者無御座候、若申来り候共引請被下間敷、私儀も達て御日間頂戴仕候上は、右職の儀は御当地にて不仕、貴殿方へも立入申間敷被 仰渡奉畏候、貴殿方へ対し一言の儀無御座候、差構無之御礼状入置申、依如件

文化十三年十一月五日

^(塗師)
ぬし職

惣 助

ぬし屋七之助殿

一札の事

一此度我等勝手に付、渡世替致候に付、貴殿へ我等是迄持来り候菓子製の諸通具^(道カ)、貴殿へ相読り^(マ、)申所実正也、右渡世の儀に付、向後諸親類は不及申に外々より一言の儀申者無御座候、尤此節食類渡世之内、餅菓子売買の儀は、一組限り仲間有之候間、養子手切として金貳両貳分慥に請取申候、若仲間差仕申者御座候は、我等

罷出埒明可申候、為後日の一札、依之如件

文化十四丑二月^(虫損)□一日

四谷塩町老丁目

筒田屋

大 助

田辺太兵衛殿

立合

太兵衛

差上申一札の事

一四谷塩町老丁目大助店弥八六人の者一同申上候、私共同国信州諏訪郡丸山新田百姓豊治良と申者、当丑の三拾八才に相成候、然る所去る文化十三年十二月中本国丸山新田を罷出、江戸表兄弟共を相尋に罷出、同国者知人の方所々相廻り、日雇稼仕罷在、当五月兄弟に見当り神田辺店仕舞、縁類三人相附本国信州へ罷越可申由にて、時八日甲州道上高井戸宿迄罷出候所、急に病氣附養生不相叶死去仕候に付、何卒其御寺にて御法経請取仕舞、野辺送り仕度奉存候、尤豊治郎死骸に付、若万ヶ一如ヶ様の儀有之候共、縁類三人は申に不及、外七人の者罷出、急度埒明け、当御寺様へ少も御苦勞相掛申間敷候、為後日の入置申一札、依如件

文化十四丑年二月九日

四谷塩町老丁目大助店

弥八店に居候三人

豊 松

四谷塩町老丁目

家主 大 助

龍栄寺

御納所衆中

以書付を奉願上候

一 四谷塩町老丁目家主大助申上候、同町宇八店磯五郎へ去る子年九月中より当丑二月分迄家賃相滞、右は私店に是迄罷在候所、月々催促「^(虫)」に、去る十二月大晦日私へ申聞候には、磯五良所持の金子を下谷御屋鋪様へ貸し出し置候間、供々右御屋鋪へ罷越掛合暮候様、申に付、下谷阿部川町御組屋鋪御小人組頭黒柳茂助様へも罷越申上置、右御組下秋山五兵衛様へ度々催促に罷越候所、当二月中、五月・七月・九月・十二月四度に御返済の対談仕、^(新カ)親き証文に致遣し候所、同月廿七日に私店を引払、同町宇八店へ引移り、店明け渡候節、私へ申聞候には、五月下谷金子請取次第勘定可致申居候所、今に以返済不申候に付、下谷御屋鋪様より御濟方無之由申に付、下谷御支配黒柳茂助様へ罷越、私御掛合の段申上候へ共、御組頭にて被仰候には、先達て掛合の通五月・七月共金子も相渡候段被仰、磯五良儀私へは金子下谷よりは金子^(マ)濟方無之由を申、度々掛合候へ共、埒明き不申、難儀至極仕候、何卒磯五郎被 召呼、家賃滞金不殘相濟候様、偏に奉願上候、以上

同店

吉五郎	文六	弥八	吉左衛門	源八	栄三郎	常藏	甚吉	角藏
病死豊治良縁類共私共方に	差置、豊治良病死相違無御座候、	尤同国同村の好身に付、私共 ^(マ) 連印	致置候、如件					

龍栄寺

御納所様

差出し申一札の事

一 此度我等店に罷在候信州諏訪郡丸山新田百姓弥八・角藏・甚藏・常藏・源八・栄三良・吉左衛門右七人の者、同国同村の知人にて、前書三人文藏・豊松・吉五郎の身寄の者豊治良と申者の由病氣に付、右四人の者神田^(マ)長者町の店相仕舞、本国表へ可罷越道中甲州道中^(マ)四谷・上の高井戸宿にて、病氣差重り豊治良儀死去致候由にて、右前書三人の者共、豊治郎死骸其御寺へ野辺送り致度旨申に付、為後日の私店七人の者へ連印相頼、差出し候所、右七人の者見分の所、我等慥御受合申上候、為後日の入置申一札、依如件

文化十四^(マ)丑二月九日

文化十四^(マ)丑九月廿日

四谷塩町耆丁目

家主 大 助

同町字八店

相手 磯 五 郎

御玄関様

乍恐以書附を奉願上候

一四谷塩町耆丁目家持茂兵衛奉申上候、私儀去る七ヶ年以前、市ヶ谷町出火の節、類焼仕候所、私地面内貸し家并私宅^(坂カ)借普請仕罷在候所、本建同様に手入修復仕度奉存候、依之私所持の四谷塩町耆丁目南側東角より八軒目、表口京間六間、裏幅同断、奥行町前式拾老間^(虫損)券古高金貳百五拾五両証文、右地面引当て金三拾両者御借に付、金拝借仕度奉存候、何卒御聞済の様、偏に奉願上候、以上

文化十四丑年七月九日

四谷塩町耆丁目家持

願 人 茂 兵 衛
五人組 惣 兵 衛
五人組 源 兵 衛
同 市 右 衛 門
名 主 茂 八 郎

町会所

御役人中様

永代売渡し申家屋鋪の事

一此度四谷塩町耆丁目南側東角より八軒目、表口京間六間、裏幅同断、奥行町前式拾老間余町家屋鋪耆々所我等所持の地面、此度代金三拾両に各々方へ永代売渡し、則名主・五人組立合の上、右の金子槌に請取申所実正也

但し此家屋鋪に付、従

御公儀様も御構無御座候、尤御公儀方の拝領地面にては無之候、又は其上御請負年書入等の儀は一切無御座候、猶諸親類は不及申に、何方よりも違乱申者無之候、若横合より六つヶ敷申者御座候は、加印の者共何方迄も罷出急度埒明け、各々方へ少しも御苦勞相懸け申間敷候、為後日の永代売渡し申家屋鋪証文、依如件

文化十四丑年十二月

四谷塩町耆丁目家主

地面持主 茂 兵 衛
五人組 惣 兵 衛
名 主 源 兵 衛
同 市 右 衛 門
孫 右 衛 門
茂 八 郎

町会所御勘定所

御用達中

一札の事

一 地坪式間に式間半

裏地代々々年に四拾八匁者

但し横巾式間半奥行式間都合五ッ坪

巷々月一と「^(虫)」付八分宛、但し閏月の分負

右は貴殿御所持の土蔵巷々所貸に「^(虫)」取極め、貸し地代巷々

年に四拾八匁に有之候間、「^(虫)」通取極め候、右此度地所我等

方へ譲り請候「^(虫)」る寛政三亥年御改御書上の地代より直上げ

一切「^(虫)」所譲り請候に付、為念如件

寛政十年^(虫)年□月

市ヶ谷左内坂町

地主

八良兵衛

家主

卯兵衛

伊勢屋六兵衛殿